

# 鳥取県農林水産業の概要

平成18年4月



鳥取県農林水産部



マスコットキャラクター  
とりモー

平成19年鳥取県で  
全国和牛能力共進会が開催されます。

テーマ

和牛再発見！－地域で築こう和牛の未来－

表紙写真説明

「作業道と手入れされた杉林」  
鳥取市用瀬町屋住 大家氏所有林

# 目 次

I	地理・地形的条件条件	1
II	社会・経済的条件	2
III	中山間地域の概要	4
IV	農業	6
	1 主要農畜産物紹介	6
	2 農業の概要	11
	3 農家及び農業従事者	12
	4 農地とその利用	17
	5 農業生産	20
	6 農家経済	33
V	林業	34
	1 特用林産物等紹介	34
	2 林業の概要	35
	3 森林の整備・保全	37
	4 林業の担い手と生産基盤の整備	38
	5 木材需給と木材産業	40
	6 山村社会	41
VI	水産業	42
	1 主要水産物紹介	42
	2 水産業の概要	44
	3 漁業生産	48
	4 漁業経営	50
	5 栽培漁業の現況	50
	6 漁港	51
	参考資料	52
	県内ふれあい市の状況	53
	鳥取県行政組織機構	55
	県内の主な農林水産業団体一覧	56
	市町村別地域指定の概要	57

# I 地理・地形的条件

本県は、本州の西南部、山陰地方の東部に位置し、北は日本海に面し、東は兵庫県、西は島根県、南は中国山地のりょう線を境に岡山県、広島県と隣接しており、東西126km、南北62kmで東西方向に細長くなっている。

地形的には、中国山地が日本海側にせり出した形で横たわっているため、山陽側に比べ狭小急傾斜で山地が多い地形となっており、県西部に中国地方第一の高峰大山、東部に氷ノ山、扇ノ山等の急しゅんな山岳地帯が広がっている。一方、平野は三大河川（千代川、天神川、日野川）の下流を中心に開けているが、概して規模は小さい。海岸線は屈曲に乏しく、その75%は平坦な砂浜海岸となって東西に続いている。沿岸地域が、東中部の砂丘域、中西部の岩石域及び西部の内湾に大別される。

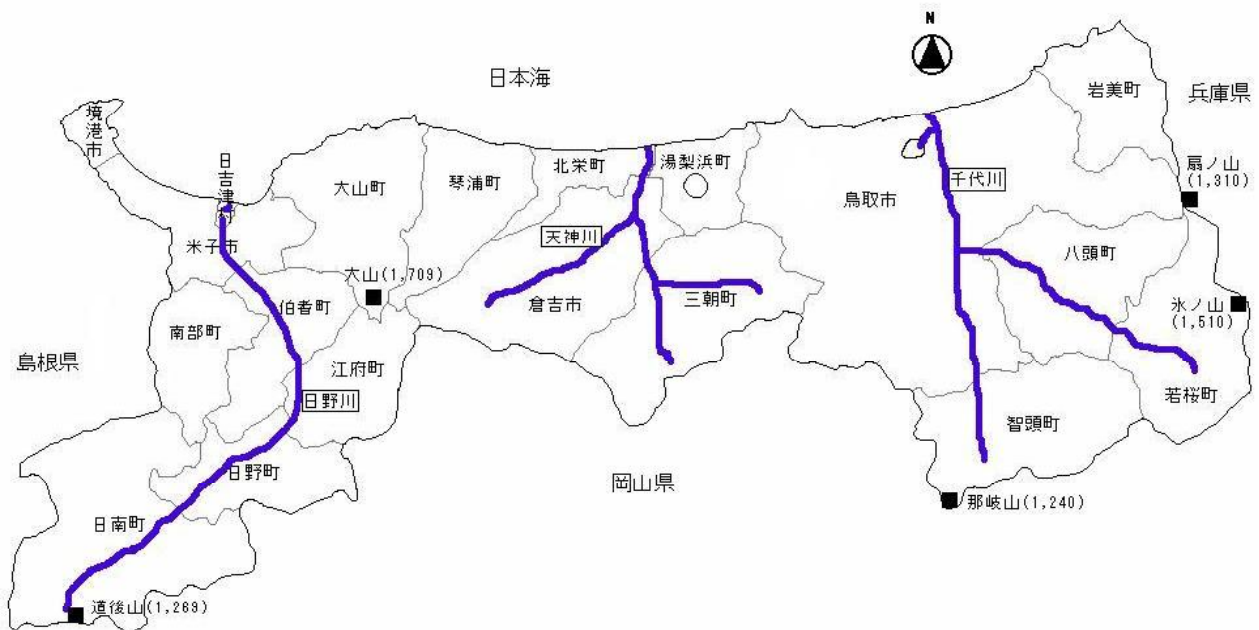
また、本県特有の地形である砂丘は、急傾斜地を流れ出る河川の流砂と日本海の海流、風波によって形成されたもので、三大河川の河口付近を中心に発達している。

このように山地が多く平野が少ない地形のため、全面積に占める耕地の割合は10.2%で、全国の12.6%を下回っている。

## 県土の状況

総土地面積	耕地面積	林野面積	耕地率		林野率	
			鳥取県	全国	鳥取県	全国
350,725ha	35,900ha	258,447ha	10.2%	12.6%	73.7%	66.7%

- 資料1 総土地面積は、国土交通省国土地理院「平成16年全国都道府県市区町村別面積調」  
 2 耕地面積は、農林水産省「耕地面積調査」（平成16年）  
 3 林野面積は、「平成15年度版 鳥取県林業統計」  
 4 全国林野率は、農林水産省「農林業センサス」（平成17年暫定値）による。



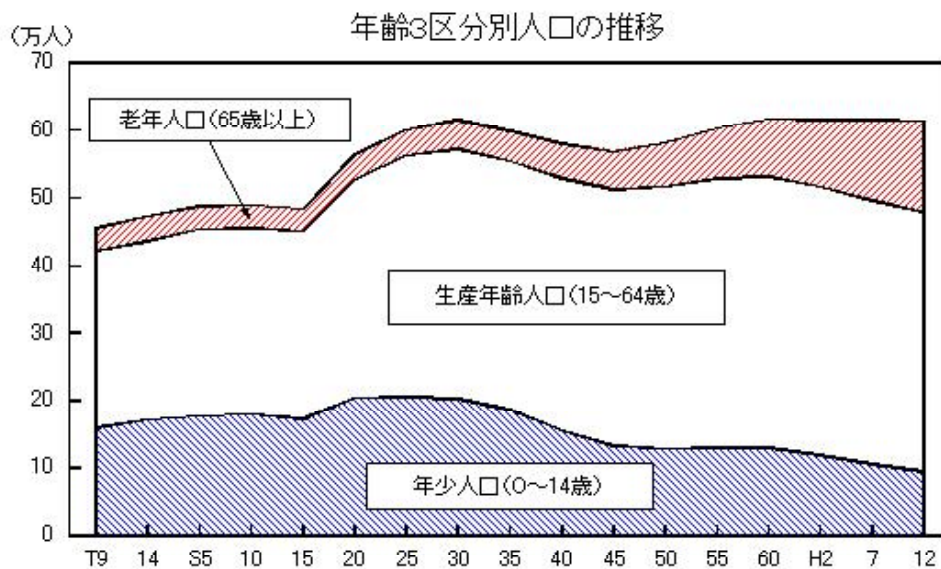
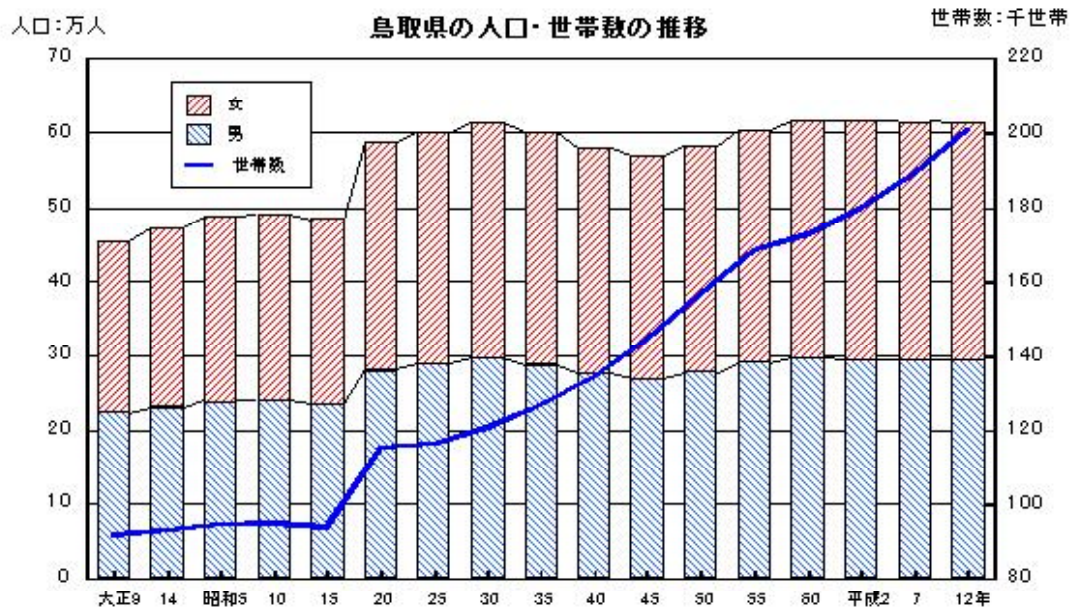


## Ⅱ 社会・経済的条件

本県は、行政ブロックでは中国地方に入っているが、経済的には大阪を中心とする近畿経済圏に属しており、人的往来、物資の移出入等京阪神地方との結び付きが強い。

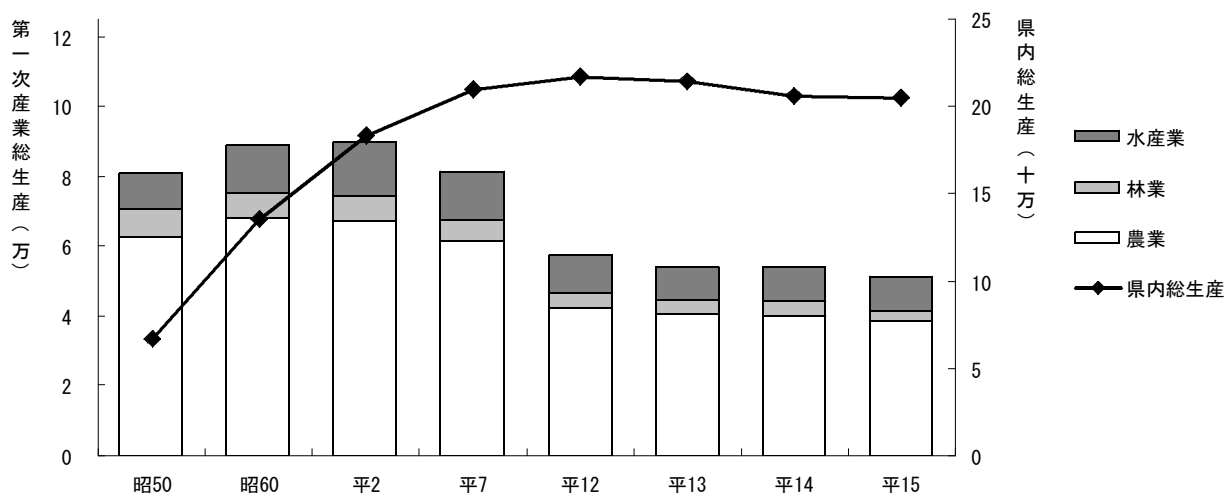
人口、世帯数を平成12年10月の国勢調査で見ると、人口は61万3,289人、世帯数20万1,067世帯で、ともに全国で最小である。

次に経済構造を見ると、平成15年度県内総生産は、2兆475億円で、産業別の構成では、第1次産業が2.5%、第2次産業が26.5%、第3次産業が75.6%となっている。



資料：総務省統計局「国勢調査報告」

## 経済活動別県内総生産



第1次産業は512億1,500万円で、前年度に対し、4.0%減少し、9年連続のマイナスとなった。

農業は、果実、肉用牛、豚の産出額の減少などにより、前年度に対し、4.4%の減少（前年度0.7%減）となった。林業は育林業の産出額が増加したことから、前年度に対し1.8%の減少（前年度21.6%減）となった。水産業は内水面漁業において産出額が減少したため、前年度に対し3.0%の減少（前年度2.3%増）となった。

## 県経済の主要指標

項目	単位	平成2年度	7	12	13	14	15
総人口	人	615,722	614,929	613,289	613,165	612,047	610,745
就業者数	人	321,645	333,870	325,584	321,354	318,135	317,190
うち第一次産業	人	51,576	46,318	37,261	35,627	34,078	32,603
農業	人	48,077	42,513	34,356	32,858	31,430	30,076
林業・狩猟業	人	1,293	1,356	966	898	843	787
漁業水産養殖業	人	2,386	2,449	1,939	1,871	1,805	1,740
県内総生産	百万円	1,833,810	2,096,097	2,175,706	2,142,597	2,057,098	2,047,467
うち第一次産業	百万円	89,611	81,377	57,420	54,265	54,185	51,215
農業	百万円	67,156	61,428	42,354	40,413	40,073	38,390
林業	百万円	7,245	6,057	4,304	4,009	4,043	3,053
水産業	百万円	15,209	13,892	10,761	9,844	10,069	9,772
1人当たり県民所得	千円	2,334	2,631	2,661	2,572	2,461	2,438

資料：「鳥取県県民経済計画報告書」

注：鳥取県の総人口は、平成2年、平成7年、平成12年は国勢調査人口、その他の年次は総務省の推計人口である。  
就業者数は、二重雇用分を含んだ人数であるため、国勢調査の数値とは一致しない。

## 交通

本県を取り巻く交通条件は、従来から京阪神との密接なかかわりのもとに発達をとげてきた。昭和57年の伯備線の電化、平成6年の智頭鉄道の開通及び平成9年の中国横断自動車道岡山米子線の全線開通により、京阪神－山陽・四国等への時間的距離が短縮された。

今後、中国横断自動車道姫路鳥取線、山陰自動車道などの建設により本格的な高速交通網時代を迎えることが予想される。

### Ⅲ 中山間地域の概要

本県は、三大河川流域の水田地帯を除いてほとんどが中山間地域に分類される。面積で83%、耕地面積で66%、農業産出額で61%を占める。

#### 鳥取県の農業地域類型の概要

単位：ha、人、億円、%

類型区分	市町村	面積		人口		耕地		農業	
			割合		割合	面積	割合	産出額	割合
全市町村	26	350,725	100	613,289	100	35,900	100	703	100
都市的地域	4	90,502	26	379,314	62	10,300	29	183	26
平地農業地域	4	8,295	2	33,594	5	4,370	12	135	19
中間農業地域	9	68,910	20	138,695	23	14,900	41	297	42
山間農業地域	9	150,049	43	61,686	10	6,340	18	88	13
中山間農業地域	18	218,959	63	200,381	33	21,240	59	385	55

資料1：面積：平成17年国土地理院調査

2：人口：平成12年国勢調査

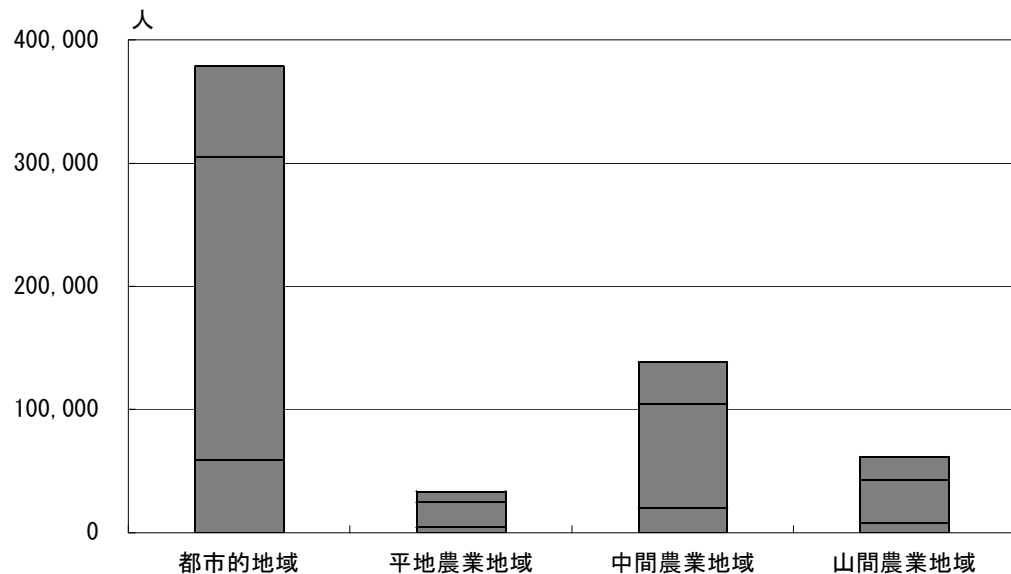
3：耕地面積：平成16年耕地面積調査

4：農業産出額：第52次鳥取農林水産統計年報

注1：面積の類型区分については、名和町・琴浦町・大山町・中山町（計32.969km<sup>2</sup>）が境界未定のため含めていない。

注2：市町村数は平成17年1月1日時点のものである。

#### 年齢別人口と構成比



年齢	都市的地域		平地農業地域		中間農業地域		山間農業地域	
	人口	割合	人口	割合	人口	割合	人口	割合
0～14	59,738	16	4,827	14	20,565	15	8,454	14
15～64	245,236	65	20,375	61	83,534	60	34,776	56
65～	73,603	19	8,392	25	34,551	25	18,438	30
計	378,577	100	33,594	100	138,650	100	61,668	100

注：年齢不詳者を含まない（平成12年国勢調査）

### 市町村別の農業地域類型

都市的地域		平地農業地域		中間農業地域		山間農業地域	
市町村名	第2次分類	市町村名	第2次分類	市町村名	第2次分類	市町村名	第2次分類
鳥取市 米子市 境港市 日吉津村	水田型 田畑型 畑地型 水田型	北栄町	田畑型	倉吉市 八頭町 湯梨浜町 琴浦町 大山町 南部町 伯耆町	田畑型 水田型 田畑型 田畑型 田畑型 水田型 水田型	岩美町 若桜町 智頭町 三朝町 日南町 日野町 江府町	水田型 水田型 水田型 水田型 水田型 水田型 水田型
○可住地に占めるDID面積が5%以上で、人口密度500人以上又はDID人口2万人以上の市町村 ○可住地に占める宅地等率が60%以上で、人口密度500人以上の市町村。ただし、林野率80%以上のものは除く。		○耕地率20%以上かつ林野率50%未満の市町村。ただし、傾斜20分の1以上の田と傾斜8度以上の畑の合計面積の割合が90%以上のものを除く。 ○耕地率20%以上かつ林野率50%以上で、傾斜20分の1以上の田と傾斜8度以上の畑の合計面積の割合が10%未満の市町村		○耕地率が20%未満で、「都市的地域」及び「山間農業地域」以外の市町村 ○耕地率が20%以上で、「都市的地域」及び「平地農業地域」以外の市町村		○林野率80%以上かつ耕地率10%未満の市町村	

注：市町村は平成18年3月1日現在である。



# IV 農 業

## 1 主要農畜産物紹介

### 【米】

#### ○鳥取県の米づくり

本県の米づくりは、良食味の早生品種「コシヒカリ」と「ひとめぼれ」の作付が約90%（平成17年産）を占めている。

また、特徴的な米づくりとして、特別栽培米や有機米の栽培面積が増加傾向にあり、琴浦町等では、本県で開発した再生紙マルチ栽培に取り組んでいる。



写真 再生紙マルチ栽培

#### ○代表産地

県内生産地上位5位（平成17年産作付面積 県計14,400ha）

1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
鳥取市3,610ha	倉吉市1,600ha	米子市1,290ha	大山町1,160ha	八頭町923ha

#### ○代表品種（平成17年産作付面積）

品 種	作付面積 (比率)	品種の特徴	県推奨品種への 採用年
コシヒカリ	8,232ha (62%)	9月中旬に収穫される良食味の早生品種	昭和59年
ひとめぼれ	4,044ha (30%)	9月上旬に収穫される良食味の極早生品種、作付は全国第6位	平成5年
その他	1,463ha (8%)		

(農林水産省調べ)

#### ○米の産出額と全国シェア（平成16年度）全国36位、全国シェア0.8%

産 出 額		1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
鳥取(億円)	全国(億円)					
169(県総額の23%)	20,142	新潟県	北海道	秋田県	福島県	宮城県

(農林水産省調べ)

#### ○米の収穫量（平成17年度）73,400トン（全国37位、全国シェア0.8%）

収量（平成17年産） 510kg/10アール（全国25位）、作況指数98

#### ○主な出荷先（16年産民間流通米、全農とっとり扱い）

##### 品種別販売数量

品種名	販売数量(t)	比率(%)
コシヒカリ	16,147	55.8
ひとめぼれ	9,942	34.4
おまちかね	433	1.5
その他	1,720	5.9
うるち米計	28,242	97.6
大粒酒米	200	0.7
もち米	489	1.7
合 計	28,931	100.0

##### 販売先別出荷割合

地域別販売先	比率(%)
県 内	32.9%
京 阪 神	64.0%
九 州	2.4%
中 国 四 国	0.7%

## 【梨】

### ○鳥取県の梨

本県の梨は、二十世紀梨を中心として、幸水、豊水、新興の赤ナシ3品種が主力となっている。昭和60年代以降、老木化や栽培面積の減少により生産量が減少しているが、黒斑病に強いゴールド二十世紀やおさゴールドの登場により、改植・高接ぎが積極的に進められている。



### ○代表産地

#### 県内産地上位5位（平成16年度）

市 町 村	作付面積(ha)	収穫量(t)
1. 鳥取市	373	7,000
2. 湯梨浜町	317	6,270
3. 琴浦町	221	4,230
4. 倉吉市	152	3,000
5. 八頭町	124	2,670

### ○代表品種

二十世紀梨 明治21(1888)年、千葉県の上野覚之助氏が発見、鳥取県へは明治37(1904)年に鳥取市桂見の北脇永治氏が導入した。8月中旬～9月中旬に収穫される青ナシの代表的品種。日持ちが良い。

新興 新潟県農業試験場が育成。「二十世紀」の実生) 10月中旬～11月中旬に収穫される赤ナシの代表的品種。日持ちが良い。

豊水 農林水産省果樹試験場が育成(「リ-14」×「八雲」)。9月上中旬に収穫される赤ナシの代表的品種。甘みが強い。

### ○日本なしの産出額と二十世紀梨の収穫量全国シェア

産 出 額 (平成16年度)		二十世紀梨の収穫量 (平成17年度)				
鳥取(億円)	全国(億円)	1位	2位	3位	4位	5位
68	846	鳥取県	長野県	福島県	新潟県	群馬県

(鳥取統計・情報センター調べ)

### ○平成15年度二十世紀梨 市場地区別販売数量

	数量(kg)	割合		数量(kg)	割合
北海道・東北	88,340	0.86%	中国・四国	2,155,120	21.07%
関東・東海・信越	832,095	8.14%	山口・九州	455,525	4.45%
中京・北陸	67,550	0.66%	貿易(沖縄)	1,629,800	15.94%
京 阪 神	4,999,875	48.88%	合 計	10,228,305	100.00%

資料：「果実の生産と販売結果」全農とっとり

## 【白ねぎ】

### ○鳥取県の白ねぎ

鳥取県西部の弓浜半島の砂畑を中心に生産されており、現在では、水田転作品目として平坦地から山間地まで県下全域に産地拡大し、周年出荷が行われている。すいかとともに鳥取県の主力的野菜となっている。



### ○県内の主な産地（青ねぎを含む）

- ①米子市（406ha）、②境港市（106ha）、③大山町（69ha）  
④鳥取市（52ha）⑤倉吉市（36ha）

（平成16年度第53次鳥取県農林水産統計年報「農作物の部」）

### ○代表品種

春扇、坊主しらず（春ねぎとして3～5月出荷）、長悦（夏ねぎとして6月～9月中心に出荷）、東京冬黒（秋冬ねぎとして10月～2月を中心に出荷）

### ○ねぎの産出額と出荷量全国シェア：7位、3.0%

産出額		1位	2位	3位	4位	5位
鳥取(億円)	全国(億円)					
38	1,315	千葉県	埼玉県	茨城県	北海道	群馬県

（農林水産省調べ）

### ○主な出荷先

名京阪神51%、中京・東海13%、中国四国20%、関東3%、その他13%（全農とっとり調べ）

## 【すいか】

### ○鳥取県のすいか

鳥取県中部地区を中心に生産されている。出荷時期は6月上旬から7月下旬が中心で、出荷時期に合わせて、早いものから順にビニールハウス、大型トンネル、中型トンネルで栽培している。



### ○県内の主な産地

- ①北栄町（259ha）、②倉吉市（130ha）、③琴浦町（34ha）  
④鳥取市（32ha）、⑤伯耆町（16ha）

（平成16年度 第53次鳥取県農林水産統計年報「農作物の部」）

### ○代表品種

昭和55年に導入された縞王MKが25年間主流であったが、近年は筑波の香り、祭ばやし等肉質が硬めで糖度の高い品種が導入されつつある。

### ○平成16年度すいかの産出額と出荷量全国シェア：5位、5.8%

産出額		1位	2位	3位	4位	5位
鳥取(億円)	全国(億円)					
35	676	熊本県	千葉県	山形県	茨城県	鳥取県

（農林水産省調べ）

### ○主な出荷先

名京阪神42%、中国四国28%、関東23%、その他7%（全農とっとり調べ）

## 【鳥取県の肉用牛】

肉用牛は、飼育戸数が減少する中、1戸当たり飼養頭数は年々増加し、総飼養頭数は横ばい状況であったが、平成3年の牛肉自由化後は減少傾向にある。

平成13年に発生したBSEの影響で急落した子牛価格、肉牛価格は発生前のレベルにまで回復したものの、長期化する景気の低迷など不安定要素は依然多い。

### ○代表産地

①琴浦町、②大栄町、③鳥取市、④大山町

### ○代表銘柄

鳥取和牛、鳥取F1牛、鳥取牛、東伯和牛、東伯牛、美歎牛

### ○肉用牛の産出額と全国のシェア

産出額		1位	2位	3位	4位	5位
鳥取(億円)	全国(億円)					
24	4,510	鹿児島県	宮崎県	北海道	熊本県	栃木県
0.5%		13.7%	11.1%	11.0%	4.9%	4.5%

(平成15年生産農業所得統計)

### ○主な出荷先(肥育牛)

県内65.7%、大阪府15.4%、兵庫県9.0%、東京都2.5%、その他0.4% (平成16年畜産物流通統計)



写真 水田を利用した放牧

## 【鳥取県の乳用牛】

酪農家戸数が小規模農家の廃業により年々減少する中、一戸当たりの飼養頭数は規模拡大が進んでいる(平成15年43頭)。また、専門化が進むにつれて大規模経営が増加するとともに、比較的后継者が確保され、地域農業の中核的リーダーとなっている。生乳生産量は、計画生産6万t強で推移している。県産牛乳は、全量が県内で牛乳や乳製品に加工され、県内外に出荷されている。

### ○代表産地

①大山町(16,285t) ②琴浦町(15,452t) ③倉吉市(7,196t)  
④鳥取市(6,014t) ⑤大栄町(5,059t)

### ○代表乳製品

飲用牛乳、乳飲料、ヨーグルト、生クリーム、バター、菓子(アイスクリーム、シュークリーム、ケーキ等)

### ○飲用牛乳の産出額と全国シェア

産出額		1位	2位	3位	4位	5位
鳥取(億円)	全国(億円)					
63	7,893	北海道	栃木県	千葉県	熊本県	群馬県
0.8%	100%	43.3%	4.0%	3.7%	3.5%	3.3%

(平成15年生産農業所得統計)

### ○主な出荷先

県内61.5%、大阪15.8%、兵庫8.2%、岡山6.2%、その他8.3% (平成16年畜産物流通統計)



写真 大山放牧場の乳牛

## 【鳥取県の養豚】

昭和30年代は小規模農家が大半であったが、昭和40～50年代には大規模専業経営へと発展してきた。しかし、環境問題の顕在、さらに豚肉の輸入量の増加、価格の低下等が重なり、60年代以降大幅に飼養農家が減少した。この間、飼養頭数は規模拡大により増加を続けたが、平成2年以降減少に転じている。一戸当たりの飼養頭数は着実に増加し、平成16年には1,222頭／戸となっている。



### ○代表産地

①大山町 ②琴浦町 ③日南町

### ○養豚の産出額と全国のシェア

産出額		1位	2位	3位	4位	5位
鳥取(億円)	全国(億円)					
45	4,955	鹿児島県	宮崎県	茨城県	千葉県	群馬県
0.9%		14.5%	9.2%	7.1%	5.9%	5.6%

(平成15年畜産物流通統計)

### ○主な出荷先

県内59.4%、鹿児島10.4%、徳島8.0%、兵庫6.9%、島根6.7%、その他8.6%

(平成16年畜産物流通統計)

## 【鳥取県の養鶏】

本県の養鶏は、大消費地に比較的近いという立地条件にも恵まれ、特にブロイラーにおいては全国屈指の生産県として発展してきた。最近では鶏肉に高付加価値鶏肉が求められ、中小家畜試験場では鳥取地どりピヨを平成3年に作出した。採卵鶏にあつては、昭和40年代には規模拡大、団地造成等により最盛期を迎えたが、その後卵価の乱高下、飼料価格の高騰により大幅に減少した。



写真：「鳥取地どりピヨ」

### ○代表産地

①琴浦町 ②大山町 ③鳥取市 ④米子市 ⑤日南町

### ○養鶏の産出額と全国シェア

産出額		1位	2位	3位	4位	5位
鳥取(億円)	全国(億円)					
75	6,851	鹿児島県	岩手県	宮崎県	茨城県	青森県
1.1%		10.4%	9.6%	8.7%	4.4%	4.2%

(平成15年生産農業所得統計)

### ○主な出荷先

(鶏卵) 県内67.7%、兵庫23.0%、その他9.3%

(ブロイラー) 県内95.9%、京都2.5%、岡山1.6%

(平成16年畜産物流通統計)

## 2 農業の概要

農業・農村は、食料の供給をはじめとして、地域経済への寄与、県土や環境の保全、文化の伝承や教育的機能、さらには保健休養機能等多面的で重要な役割を果たしており、一層の発展を図る必要がある。

しかし、今、農業・農村は、担い手の減少、高齢化の進行に加え、ウルグアイラウンド農業協定の実施などこれまでにない厳しい課題に直面している。

このような転換期にあって、活力ある農業、魅力あふれる農村が実現できるよう諸々の施策を展開することとしている。

本県の農業生産は、三大河川に開けた水田地帯での水稻、県東中部の中山間地帯の傾斜地及び黒ぼく丘陵地帯のなしを中心とした果樹、黒ぼく畑及び砂丘地帯での野菜、大山山ろく地帯の酪農、山間地域の肉用牛など多様な生産が行われている。

中国四国各県の主な農業指標の比較表

項目 県名	総 農家数 (H16)	耕地 面積 (H16)	農 業 産出額 (H16)	米	野菜	果実	花き	畜産	その他	生産農 業所得 (H15)	分析指標 (H15)	
											農家1戸 当たり 生産農 業所得	耕地10a 当たり 生産農 業所得
鳥取県	戸 35,740	ha 35,900	億円 721 (100)	億円 169 (23.4)	億円 176 (24.4)	億円 84 (11.7)	億円 28 (3.9)	億円 224 (31.1)	億円 40 (5.5)	億円 244	千円 672	千円 67
島根県	45,570	39,800	645	258	99	45	23	191	29	200	427	50
岡山県	84,510	71,000	1,262	357	199	167	36	434	69	398	465	56
広島県	74,690	60,900	1,044	302	171	126	32	369	44	373	488	61
山口県	51,920	51,500	700	259	133	43	29	208	28	223	419	43
中国計	292,420	259,100	4,372 (100)	1,345 (30.8)	778 (17.8)	465 (10.6)	148 (3.4)	1,426 (32.6)	210 (4.8)	1,439	482	55
徳島県	39,910	32,700	1,082	149	384	104	45	298	102	439	1,085	133
香川県	47,900	33,300	819	152	246	60	51	266	44	282	581	84
愛媛県	57,380	57,300	1,336	174	231	462	39	302	128	496	848	85
高知県	32,840	28,900	978	132	549	97	67	79	54	407	1,218	141
四国計	178,030	152,200	4,215 (100)	607 (14.4)	1,410 (33.4)	723 (17.2)	202 (4.8)	945 (22.4)	328 (7.8)	1,624	898	106
全 国	千戸 2,934	千ha 4,714	億円 89,143 (100)	億円 20,142 (22.6)	億円 21,333 (23.9)	億円 7,624 (8.6)	億円 4,134 (4.6)	億円 26,192 (29.4)	億円 9,718 (10.9)	億円 36,848	千円 1,236	千円 78

資料：総農家数は「第79次農林水産省統計表」から。（農林業センサスと農業構造動態調査報告書基本構造による。）

耕地面積は「耕地及び作付面積統計」。

農業産出額及び生産農業所得は「生産農業所得統計」。

下段（ ）は農業産出額の割合



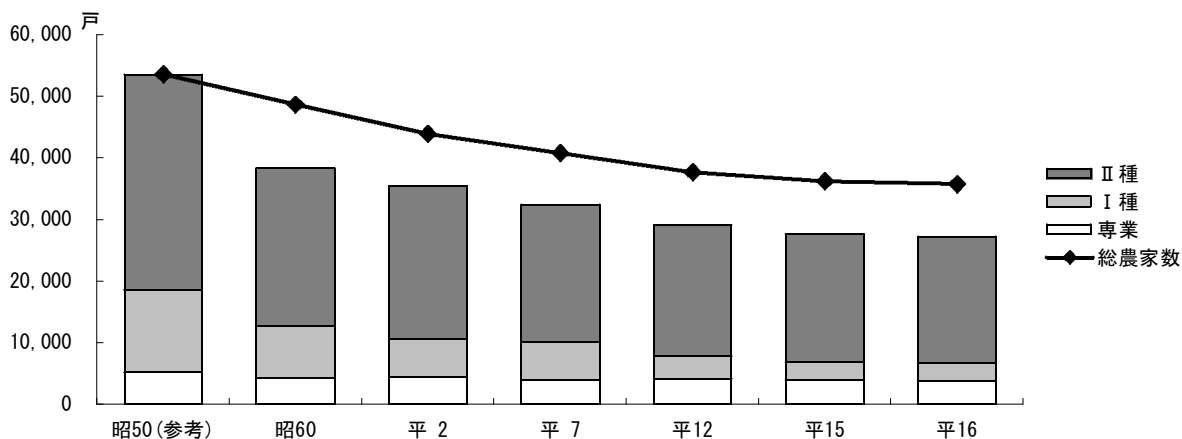
### 3 農家及び農業従事者

#### 農家

農家戸数は、減少を続けている。

専業別では、第一種兼業農家は減少傾向にあり、第二種兼業農家が販売農家の75%を占める。

#### 農家数の推移



注：専業・兼業の区分は昭和50年は総農家、昭和60年以降は販売農家を調査対象としている。

#### 専業・兼業別農家数（販売農家）

単位：戸

区分	総農家	販売農家	専業農家	うち男子生産年齢人口がいる農家	兼業農家		
					総数	第1種兼業	第2種兼業
昭和50年 2月	53,582	—	5,162	3,593	48,420	13,433	34,987
60年 2月	48,655	38,345	4,308	2,771	34,037	8,339	25,698
平成 2年 2月	43,921	35,433	4,480	2,422	30,953	6,173	24,780
7年 2月	40,777	32,495	3,994	1,627	28,501	6,082	22,419
12年 2月	37,697	29,117	4,168	1,379	24,949	3,662	21,287
15年 2月	36,260	27,710	3,930	1,050	23,776	2,980	20,790
16年 2月	35,740	27,200	3,880	1,070	23,330	2,840	20,490
構成比 (H16.1)	—	100.0	14.3	3.9	85.8	10.4	75.3
全国 (構成比)	2,934,180	2,161,390 (100.0)	440,750 (20.4)	186,870 (8.6)	1,720,640 (79.6)	281,850 (13.0)	1,438,790 (66.6)

資料：農林業センサス、農業構造動態調査の結果資料による概算値

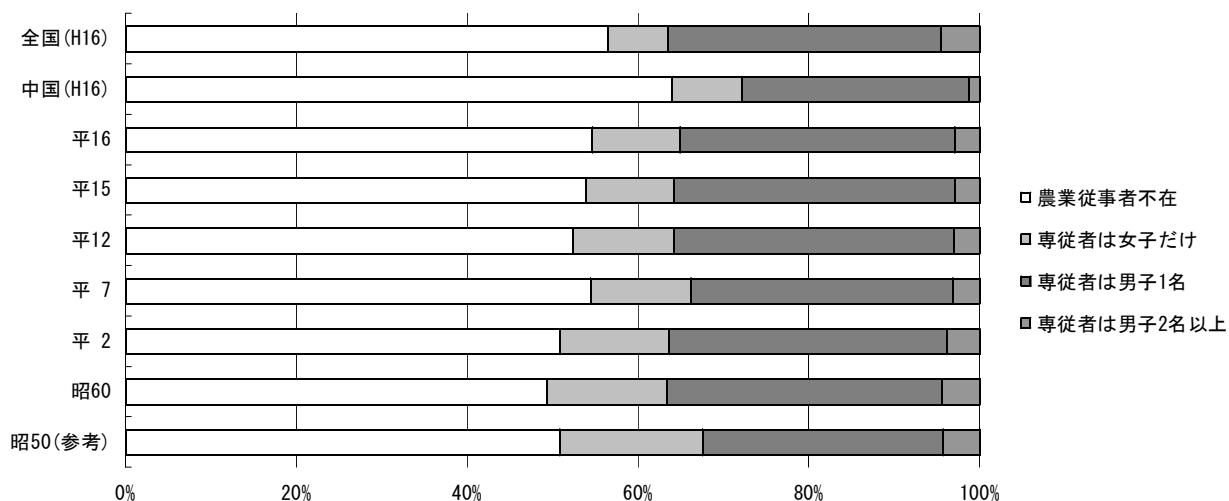
注1：ラウンドの関係で内訳と合計は一致しないことがある（以下の各表とも同じ）。

2：昭和50年数値は、総農家を調査対象としている。



農業労働力を保有状態別にみると、54.2%の農家で農業専従者はなく、さらに、10.2%の農家では農業専従者は女子だけとなっている。男子専従者のいる農家は全体の34.9%で、そのうち60歳未満の男子専従者のいる農家は全体の7.7%で、兼業化の進行、農業労働力の高齢化がみられるものの、中国地方と比較すると男子専従者のいる農家の割合は高くなっている。

### 農業労働力保有状態別農家数（構成比）の推移



注：昭和50年は総農家を調査対象としている。

### 農業労働力保有状態別農家数（販売農家）

単位：戸、%

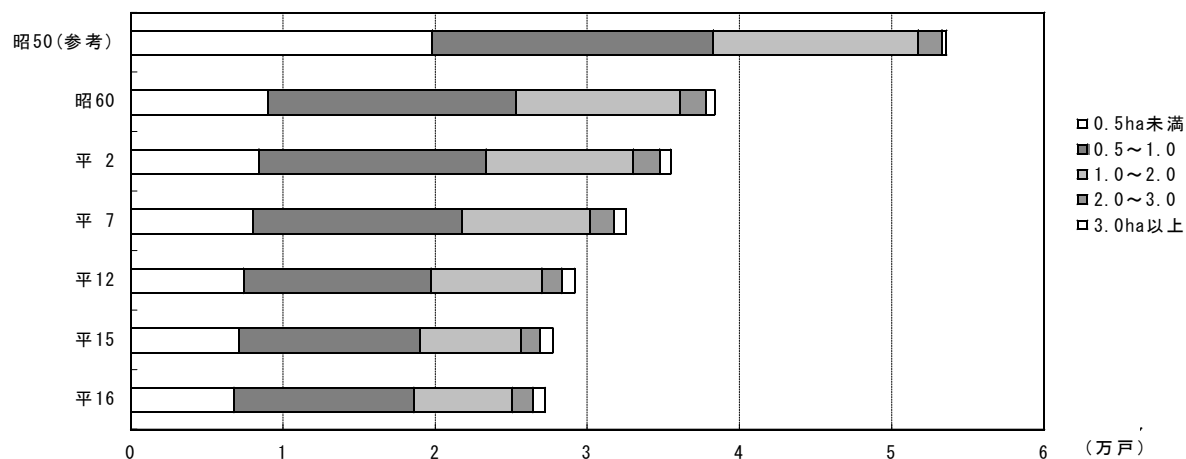
区 分	農家数 ①	農業専従者 なし	農業専従者 は女子だけ	男子専従者 1人	男子専従者 2人以上	60歳未満 男子専従者 がいる②	
						構成比 ②/①	%
昭和50年 2月	53,582	27,213	8,961	15,115	2,293	—	—
60年 2月	38,345	18,901	5,408	12,332	1,704	8,054	21.0
平成 2年 2月	35,433	17,995	4,551	11,537	1,350	5,640	15.9
7年 2月	32,495	17,677	3,830	9,968	1,020	3,363	10.3
12年 2月	29,117	15,221	3,472	9,517	907	2,661	9.1
15年 2月	27,710	14,930	2,860	9,110	810	2,260	8.2
16年 2月	27,200	14,750	2,780	8,680	800	2,100	7.7
中国(H16.1)	百戸 1,993	百戸 1,269	百戸 161	百戸 527	百戸 25	百戸 98	% 4.9
全国(H16.1)	千戸 2,161	千戸 1,211	千戸 151	千戸 684	千戸 98	千戸 308	% 14.3

資料：農林業センサス、農業構造動態調査

注：昭和50年数値は総農家を調査対象としている。

農家数を経営耕地面積規模別にみると、「0.5～1.0」の割合が最も多く、全国に比べて、「3.0ha以上」の大規模農家の割合が少なくなっている。

### 経営耕地面積規模別農家数の推移



注：昭和50年は総農家を調査対象としている。

### 経営耕地規模別農家数（販売農家）

単位：戸

区分	農家数	0.5ha未満	0.5～1.0	1.0～2.0	2.0～3.0	3.0ha以上	
昭和50年 2月(参考)	53,582	19,782	18,465	13,465	1,569	301	
60年 2月	38,345	8,983	16,262	10,762	1,773	565	
平成 2年 2月	35,433	8,391	14,934	9,679	1,717	712	
7年 2月	32,495	8,016	13,725	8,421	1,561	772	
12年 2月	29,117	7,374	12,331	7,268	1,342	802	
15年 1月	27,710	7,090	11,900	6,620	1,270	810	
16年 1月	27,200	6,750	11,840	6,480	1,310	820	
構成比	鳥取県	100.0	24.8	43.6	23.8	4.8	3.0
% (H16)	全国(都府県)	100.0	23.3	35.5	26.0	8.1	7.1

資料：農林業センサス、農業構造動態調査

注：昭和50年数値は総農家を調査対象としている。

### 稲作の収穫（栽培）面積規模別農家数の推移（販売農家）

単位：戸

区分	稲作農家数	0.5ha未満	0.5～1.0	1.0～2.0	2.0～3.0	3.0～5.0	5.0ha以上
昭和50年	48,163	26,933	17,264	3,916	48	2	—
60年	35,524	19,539	13,490	2,434	54	6	1
平成 2年	32,752	19,698	11,044	1,893	92	21	4
7年	30,311	15,044	11,771	3,200	203	60	33
12年	24,470	15,185	7,711	1,348	128	57	41
15年	22,990	14,540	7,000	1,250	200	—	—
16年	22,740	14,520	6,830	1,190	190	—	—
構成比	鳥取県	100	63.9	30.1	5.2	0.8	
% (H16)	全国(都府県)	100	47.5	29.5	15.9	7.1	

資料：農林業センサス。ただし15,16年は農業構造動態調査

注：昭和50・55年は、自給的農家を含む。15年及び16年の「2.0～3.0」は2.0ha以上の総数。

農家の農産物販売状況(16年)についてみると、販売農家は全農家の76%に当たる約2万7千戸強であり、このうち70%は販売額100万円未満の小規模農家である。しかし、500万円以上の農家の全農家に占める割合は、7.8%(2,110戸)で、全国の12.8%は下回るものの、中国地方平均の4.5%を大きく上回っている。

### 農産物販売金額規模別農家数 (H16年)

単位：戸

区 分		販 売 農家数	販売 なし	50万円 未満	50～ 100	100～ 300	300～ 500	500～ 1,000	1,000 万円以上
鳥取県	実 数	27,200	1,640	12,770	4,510	4,690	1,470	1,270	840
	割合 (%)	100.0	6.0	47.0	16.6	17.2	5.4	4.7	3.1
中 国 (%)		100.0	8.1	50.0	20.3	13.9	3.2	2.7	1.8
全 国 (%)		100.0	8.1	33.7	17.8	21.3	6.3	6.6	6.2

資料：農業構造動態調査

農産物販売金額1位の部門別農家数(16年)についてみると、稲作が1位の農家が66%、次いで、野菜類13%、果樹類12%、その他の作物3%、畜産2%の順となっている。

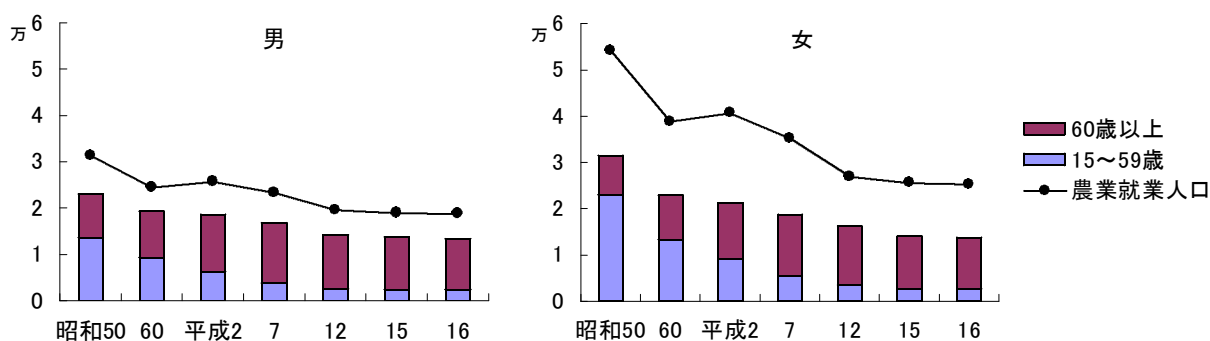
### 平成16年農産物販売金額1位の部門別農家数割合 (販売農家)

単位：%

区 分	第 1 位		第 2 位		第 3 位		第 4 位		第 5 位	
	部 門	割合	部 門	割合	部 門	割合	部 門	割合	部 門	割合
鳥 取 県	稲 作	66	野菜類	13	果樹類	12	その他の作物	3	畜産	2
中 国	稲 作	76	野菜類	8	果樹類	8	畜産	3	花き・花	2
全 国	稲 作	62	野菜類	13	果樹類	10	畜産	5	工芸農作物	4

資料：農業構造動態調査

### 農業就業人口及び基幹的農業従事者数



資料：農林業センサス、ただし、15,16年は農業構造動態調査  
注：昭和50年は総農家を調査対象としている。

農業就業人口（農業従事者のうち「自家農業だけに従事した者」と「兼業にも従事したが自家農業に主として従事した者」の合計）は、平成16年には4万4,180人、基幹的農業従事者数（ふだん仕事を主とし、しかも主として自家農業に従事した人）は、平成16年には2万7,330人となった。

これを年齢別に見ると、15～59歳は19.2%の5,260人となり、一方、男女別では女子の割合が57.3%で、依然として農業就業構造は高齢者・女性に依存する傾向となっている。

農業就業人口及び基幹的農業従事者数（販売農家）

単位：人、%

区 分		昭和50年 (参考)	60	平成2年	7	12	15	16	構成比 (16年)	
農 業 就 業 人 口	総 数	85,583	63,371	66,494	58,688	46,572	44,660	44,180	100.0%	
	男	31,398	24,565	25,741	23,398	19,627	18,980	18,850	42.7	
	女	54,185	38,806	40,753	35,290	26,945	25,680	25,330	57.3	
基幹的 農 業 従 事 者	総数	計	54,683	42,398	39,919	35,763	30,702	27,890	27,330	100.0%
		15～59歳	36,736	22,791	15,521	9,523	6,258	5,310	5,260	19.2
		60歳以上	17,947	19,607	24,398	26,240	24,444	22,580	22,070	80.8
	男	計	23,158	19,423	18,666	16,919	14,295	13,810	13,450	49.2%
		15～59歳	13,664	9,409	6,326	3,919	2,713	2,560	2,460	9.0
		60歳以上	9,494	10,014	12,340	13,000	11,582	11,240	10,980	40.2
	女	計	31,525	22,975	21,253	18,844	16,407	14,080	13,880	50.8%
		15～59歳	23,072	13,382	9,195	5,604	3,545	2,740	2,790	10.2
		60歳以上	8,453	9,593	12,058	13,240	12,862	11,330	11,090	40.6

資料：農林業センサス、ただし、15、16年は農業構造動態調査

注：昭和50年数値は総農家を調査対象としている。平成2年までは「16～59歳」を調査対象としている。

近年の新規就農者数は、年平均40人程度と少ないが、非農家出身の新規就農者（新規参入者）が年に4、5名見られるなど、新たな動きが出てきている。

新規就農者の状況

単位：人

区 分		昭和60年	平成2年	7年	11年	12年	14年	15年	16年
40歳未満の就農者数		—	30	18	34	38	38	42	20
新規 学卒	高卒就農者数	17	17	8	16	16	18	19	9
	農大卒等就農者数	—	1	4	8	7	9	10	6
Uターン就農者数		—	11	4	7	13	6	9	3
新規参入者数		—	1	2	3	2	5	4	2
40歳以上の就農者数		—	—	8	4	5	8	6	6
Uターン就農者数		—	—	5	1	3	4	2	4
新規参入者数		—	—	3	3	2	4	4	2
合 計		—	—	26	38	43	46	48	26

資料：高卒就農者数は学校基本調査、その他は経営支援課調べ。

注：40歳以上の就農者数は、40歳以上55歳未満の者。

40歳以上の就農者数のうち、平成7年までは中四国農政局鳥取統計情報事務所調べ。

昭和60年までは高卒就農者数のみの調査、平成2年は35歳以下の新規就農者の調査。

## 4 農地とその利用

### 土地利用

「農業振興地域の整備に関する法律」に基づく農業振興地域は、県土の約50%に当たる17万5,909ha（平成16年3月末）が指定されており、農業の分野において効率的な土地利用と、優良農用地の保全確保が図られている。

また、農業振興地域の中の農用地区域は、農業振興地域の22.5%にあたる3万9,568haで、この区域は農業施策を集中的に実施し、今後とも農業上の利用を確保すべき土地の区域として位置付けられている。

耕地面積は3万5,900haで県土の約10.2%を占めているが、転用等のかい廃面積が、開墾等の拡張面積を上回って推移しており、引き続き減少傾向にある。

また、近年高齢化等により耕作放棄する農家が増加し、県全体の耕作放棄地は、3,457haあり、増加する傾向にある。

### 耕地面積

単位：ha

区分	計	田	畑	畑の内容			農家1戸あたり耕地面積	
				普通畑	樹園地	牧草地	鳥取県	全国
昭和50年	46,800	31,500	15,300	9,080	5,580	644	87.3a	112.8a
60	43,500	28,700	14,800	8,230	5,450	1,070	89.4	122.9
平成2	41,800	27,400	14,400	8,680	4,650	1,070	95.2	136.7
7	40,100	26,400	13,600	8,590	3,880	1,160	98.3	146.5
12	38,000	25,500	12,500	8,520	2,920	1,030	100.8	154.8
14	36,700	25,100	11,700	8,140	2,580	943	100.3	157.3
15	36,300	24,900	11,400	8,060	2,400	941	100.1	158.9
16	35,900	24,700	11,200	7,950	2,320	950	100.4	160.7

資料：農林水産省「耕地面積調査」、「2000年農林業センサス」、「鳥取県農林水産統計年報」

### 耕地利用

単位：ha、%

区分	稲	麦類	芋類	雑穀 豆類	野菜	果樹	工芸 農 作物	桑	飼肥 料 作物	その 他 作物	合計	耕地利用率		
												鳥取県	全国	
作 付 延 面 積	昭和50年	25,800	50	670	1,270	6,910	5,560	1,510	585	4,910	—	47,300	101.1	103.3
	60	20,500	709	512	2,148	6,500	5,590	1,270	101	5,630	1,550	44,500	102.5	105.1
	平成2	17,500	650	551	2,444	6,240	4,630	796	35	7,110	2,190	42,100	100.7	102.0
	7	18,800	32	245	901	5,460	3,850	605	10	6,550	2,260	38,700	96.5	97.7
	12	15,000	214	220	1,419	5,290	2,890	436	—	6,120	1,920	33,300	87.6	94.5
	14	14,300	274	205	1,727	4,870	2,530	422	—	5,200	1,700	31,300	85.3	94.4
	15	14,100	109	202	1,782	4,830	2,360	403	—	5,160	1,800	30,700	84.6	94.0
	鳥取県 構成比	45.9	0.3	0.7	5.8	15.7	7.7	1.3	—	16.8	5.8	100.0	—	—
全 国 構成比	37.4	6.2	0.9	5.9	13.1	6.1	4.2	—	24.1	2.1	100.0	—	—	

資料：農林水産省「耕地及び作付面積調査」

H15は第52次鳥取農林水産統計年報（鳥取農林統計協会）

注：昭和60年以降の耕地利用率はその他作物（花き、花木、種苗、芝等）を含んだもの。

平成7年以降のいも類はかんしょのみ。平成12年以降の麦類は6麦計。

## 耕作放棄地面積放棄率の推移

単位：戸、a、%

	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年		
					耕作放棄地	耕作放棄率	所有耕地面積
農 家 数	4,523	6,831	6,481	9,749	10,389		
耕作放棄地	62,717	108,660	123,430	269,803	340,920	耕作放棄地	所有耕地面積
都市的地域放棄率	2.3	4.3	4.9	13.2	15.8	858 (ha)	4,587 (ha)
平地農業地域放棄率	1.7	2.4	3.1	7.2	9.7	547	5,118
中間農業地域放棄率	1.3	2.9	3.6	6.8	9.8	1,353	12,401
山間農業地域放棄率	1.9	3.1	4.0	8.3	10.9	651	5,296
中山間地域放棄率	1.5	2.9	3.7	7.8	10.2	2,004	17,697
鳥 取 県	1.7	3.1	3.8	8.2	11.1	3,409	27,402

資料：「農林業センサス」

注1：昭和60年～平成7年までは、

所有耕地面積＝経営耕地面積－借入耕地面積＋貸付耕地面積

耕作放棄地率＝耕作放棄地面積÷（所有耕地面積＋耕作放棄地面積）×100

注2：平成12年からは、

耕作放棄地には、土地持ち非農家の面積も含む

耕作放棄地率＝耕作放棄地面積÷（経営耕地面積＋耕作放棄地面積）×100

注3：農業地域類型別耕作放棄地率は平成の合併前市町村の区分により算出。

## 農地の流動化

本県の農地流動化の動向をみると、その方策は農地法によるものから大部分が農業経営基盤強化促進法によるものへと移行し、流動化面積は着実に増加してきた。平成16年度の流動化面積は、農業経営基盤強化促進法による流動化が9割以上を占め、その比重はますます高くなってきている。

近年、農地の借り手となる担い手農家の減少、規模拡大意欲の減退等から新規の権利設定が鈍化しつつあり、伸び悩みの傾向が見られる。しかし一方で、水稲作等において法人化による大規模経営等も展開されはじめており、流動化の今後の進展が期待される。

## 農地の権利移動の推移（1～12月に権利移動した面積）

単位：ha、%

流動化方策 年次	農地法3条		農業経営基盤強化促進法		計
	自作地有償 所有権移転	貸借権の設定	貸借権の設定	自作地有償 所有権移転	
昭和 60年	155.8 (100)	45.2 (100)	710.5 (100)	59.6 (100)	971.1 (100)
平成 2年	124.5 (80)	12.0 (27)	631.3 (89)	109.9 (184)	877.7 (90)
7	93.1 (60)	6.8 (15)	850.7 (120)	103.2 (173)	1,053.8 (109)
12	60.8 (39)	8.8 (19)	1,083.1 (152)	2.1 (4)	1,154.8 (119)
14	69.5 (45)	8.0 (18)	1,255.0 (177)	54.6 (92)	1,387.1 (143)
15	58.2 (37)	7.0 (15)	1,055.2 (149)	4.6 (8)	1,125.0 (116)
16	64.2 (41)	5.8 (13)	1,302.8 (183)	8.9 (15)	1,381.7 (142)

資料：経営支援課調べ（農地の移動と転用：農林水産省）。

注：右（）は昭和60年を100とした場合の割合

## 農業経営基盤強化推進事業による利用権設定の地目別面積の推移

単位：ha、%

区分	地目					設定率	備考
	田	畑	樹園地	その他	計		
昭和60年度	1,109.7 (55)	671.9 (33)	144.4 (7)	99.0 (5)	2,025.0 (100)	4.6	12月末 現在
平成2年度	1,630.6 (58)	850.4 (31)	221.8 (8)	90.2 (3)	2,793.0 (100)	6.3	
7	2,268.7 (65)	965.3 (30)	74.8 (2)	80.7 (3)	3,189.5 (100)	7.7	年度末 現在
12	2,335.8 (70)	727.8 (22)	194.2 (6)	96.4 (2)	3,354.2 (100)	8.5	
14	3,072.2 (72)	890.5 (21)	198.8 (5)	99.2 (2)	4,260.7 (100)	9.9	
15	3,220.6 (71)	1,029.2 (23)	161.5 (4)	103.8 (2)	4,515.1 (100)	10.5	
16	3,244.9 (73)	944.1 (21)	177.4 (4)	106.9 (2)	4,473.3 (100)	10.8	

資料：経営支援課調べ

注：() は利用権設定面積に対する割合

## 土地基盤の整備

本県の農振農用地面積は水田22,594ha、畑地13,557haとなっており、稲作主体の土地利用が行われてきた。水田は一級河川千代川、天神川、日野川の下流に広がる沖積平野部を中心に従来から積極的な土地基盤整備が行われてきた結果、水田の汎用化が進んでいる。一方、畑地は海岸線に沿って発達した砂丘地において土地基盤及び畑地かんがい施設が整備され、市場性の高い畑地農地が展開されている。

農振農用地面積に対する区画整理が実施された面積の割合は、平成15年度末で67.2%に達し、特に水田は79.0%まで整備が進み、中国地方はもとより全国的にも高い整備率となっている。地域別に見ると、近年、重点的に整備が行われてきた中間農業地域が72.4%と県平均を上回っているのに対し、山間農業地域は60.9%と立ち遅れている。

現在では水田は地形条件の厳しい中山間地域を中心に、また、畑地は大山の裾野に広がる黒ボク地帯を中心に土地基盤の整備を進めている。

また、平坦地の水田においては、担い手育成を目指し、低コスト、大区画型のほ場整備など土地基盤の再整備が始まっている。

## 農業地域類型別ほ場整備の状況（平成16年度末現在）

単位：ha、%

区分	農振農用地面積			整備済面積			整備率		
	田	畑	計	田	畑	計	田	畑	計
都市的地域	3,889.0	1,682.0	5,571.0	2,708.5	691.7	3,400.2	69.6	41.1	61.0
平地農業地域	3,407.0	3,342.0	6,749.0	2,560.2	2,009.9	4,570.1	75.1	60.1	67.7
中間農業地域	9,460.0	6,311.0	15,771.0	8,156.9	3,340.2	11,497.1	86.2	52.9	72.9
山間農業地域	5,829.0	2,089.0	7,918.0	4,427.0	390.5	4,817.5	75.9	18.7	60.8
計	22,585.0	13,424.0	36,009.0	17,852.6	6,432.3	24,284.9	79.0	47.9	67.4

1 農振農用地面積は農業振興地域整備計画要覧（H16.3）による。

2 整備済面積は年度整備量の累計で算出。

整備済面積には、再整備を行った場合の重複計上分や、農振農用地除外等となった場合の未控除分が一部含まれている。



## 5 農業生産

### (1) 農業生産の状況

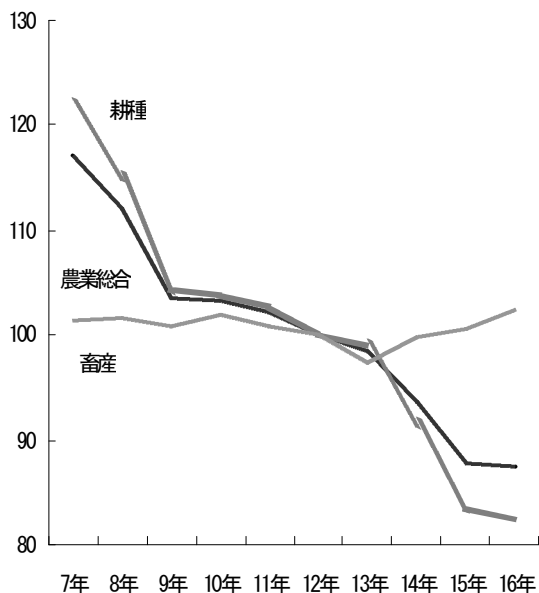
#### 農業生産指数

区 分	7年	8年	9年	10年	11年	12年	13年	14年	15年	16年
農 業 総 合	117.2	112.0	103.4	103.3	102.2	100.0	98.5	93.6	87.7	87.5
耕 種	122.1	115.1	104.2	103.7	102.6	100.0	98.9	91.5	83.4	82.4
米	123.3	112.0	101.6	95.8	95.4	100.0	98.3	95.2	81.4	86.8
い も	108.0	113.6	101.8	103.8	97.4	100.0	91.9	92.7	79.3	80.8
野 菜	108.3	110.7	102.5	106.4	106.4	100.0	97.1	91.6	88.7	85.2
果 実	128.0	117.0	110.0	109.5	105.4	100.0	103.9	88.0	76.7	70.5
工芸農作物	129.2	123.1	85.9	112.1	95.0	100.0	91.3	82.2	73.3	88.2
畜 産	101.5	101.6	100.9	102.0	100.9	100.0	97.3	99.8	100.6	102.5
肉 用 牛	116.1	109.4	104.6	102.0	96.2	100.0	89.1	99.2	96.4	99.4
豚	99.8	97.7	95.8	105.8	107.2	100.0	96.2	99.9	100.9	101.5
ブロイラー	97.7	100.3	98.1	99.4	97.8	100.0	99.2	101.4	103.0	100.4
鶏 卵	118.5	111.4	116.8	112.2	110.1	100.0	104.8	100.8	97.5	107.0
生 乳	95.7	99.4	100.4	99.1	98.6	100.0	97.2	99.0	101.9	105.8
全国農業総合	106.0	103.6	104.3	98.1	99.7	100.0	98.3	97.2	92.4	94.0

資料：農林水産省「農業生産指数」

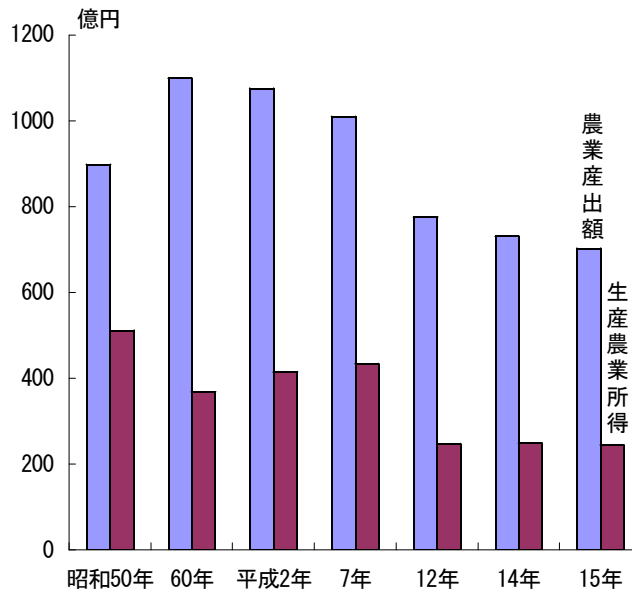
注：平成12年を100とする。

#### 農業生産指数の推移



資料：農林水産省「農業生産指数」

#### 農業産出額及び生産農業所得の推移



資料：農林水産省「生産農業所得統計」

平成16年の農業産出額は721億円で、前年に比べ18億円（2.6%）増加した。また、生産農業所得は233億円で、前年に比べ11億円（4.5%）減少した。

### 農業産出額

区 分	昭和 60年	平成 7年	12	14	15	平成16年					
						鳥取県		全国		鳥取県 の割合	順位
						農業産出額	構成比	農業産出額	構成比		
米	% 28.6	% 28.2	% 26.3	% 25.7	% 26.2	億円 169	% 23.4	億円 20,142	% 22.6	% 0.8	位 36
麦 類	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	1,438	1.6	0.0	-
雑穀・豆類	0.9	0.4	0.6	0.9	0.9	5	0.7	1,026	1.2	0.5	28
い も 類	0.7	1.0	0.9	0.9	0.8	6	0.8	2,101	2.4	0.3	37
野 菜	15.1	21.9	22.4	22.6	22.7	176	24.4	21,333	23.9	0.8	34
果 実	16.1	18.2	15.2	12.8	11.8	84	11.7	7,624	8.6	1.1	27
花 き	2.4	4.9	4.0	3.5	4.0	28	3.9	4,134	4.6	0.7	39
工芸農作物	4.6	2.9	3.0	2.4	2.3	17	2.4	3,376	3.8	0.5	26
種苗・苗木類その他	1.3	1.3	1.6	1.3	1.6	11	1.5	1,054	1.2	1.0	29
耕 種 計	70.0	78.8	74.0	70.2	70.5	497	68.9	62,227	69.8	0.8	41
肉 用 牛	3.8	2.8	3.0	4.0	3.4	28	3.9	5,140	5.8	0.5	35
乳 用 牛	6.0	6.4	8.1	8.4	8.9	68	9.4	7,864	8.8	0.9	24
豚	7.9	3.8	5.3	7.0	6.4	52	7.2	5,435	6.1	1.0	26
鶏	12.1	8.1	9.5	10.3	10.7	75	10.4	7,140	8.0	1.1	29
養 蚕	0.1	0.0	0.0	-	-	-	-	-	0.0	-	-
その他畜産物	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0	0.0	612	0.7	0.0	-
畜 産 計	29.9	21.2	26.0	29.8	29.5	224	31.1	26,192	29.4	0.9	34
加工農作物	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0	0.0	725	0.8	0.0	-
合 計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	721	100.0	89,143	100.0	0.8	39
農業産出額	億円 1,100	億円 1,010	億円 775	億円 731	億円 703	億円 721		億円 89,143			
生産農業所得	億円 368	億円 434	億円 247	億円 250	億円 244		億円 233	億円 33,735		0.7	-
生産農業所得率	% 33.4	% 43.0	% 31.9	% 34.2	% 34.7		% 32.3	% 37.8		-	-

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

注1：平成13年から「養蚕」を「畜産」に含んだ。

注2：「順位」については億円単位での数値を基に算出した。

主要農畜産物の生産量等の推移

区 分	生 産 量							作付 面積 (H15)	生 産 農家数 (H12)	
	昭和 50年	昭和 60年	平成 7年	平成 14年	平成 15年	全国 占有率	全国 順位			
米	125,900	99,800	99,300	76,800	65,400	0.8	38	14,100	24,474	
麦 類	122	1,940	79	241	258	0.02	39	109	74	
い も 類	9,330	7,450	4,260	3,670	3,150	0.3	-	202	2,995	
大 豆	1,122	3,035	1,010	2,330	2,050	0.9	26	1,300	2,746	
野 菜	す い か	75,200	46,400	39,100	28,700	27,300	5.6	5	600	1,413
	ね ぎ	12,500	11,400	16,500	14,500	14,400	2.8	7	836	2,757
	だ い こ ん	37,600	28,200	22,000	16,200	15,200	0.9	31	390	1,323
	キ ャ ベ ツ	9,070	11,600	12,500	5,850	5,730	0.4	38	196	1,250
	露 地 メ ロ ン	1,780	4,750	2,430	1,550	1,480	0.6	-	88	-
	ブ ロ ッ コ リ ー	688	2,040	1,770	2,780	3,380	3.1	10	401	-
	ら っ き ょ う	3,280	5,210	2,790	3,720	3,420	-	-	195	-
	い ち ご	2,440	1,890	606	366	367	0.2	-	31	216
	ト マ ト	3,590	3,980	3,880	3,840	3,590	0.5	42	126	695
	ホ ウ レ ン 草	2,170	2,270	1,450	1,600	1,460	0.5	42	141	706
	き ゅ う り	2,900	3,450	2,590	2,360	2,130	0.3	45	72	556
	に ん じ ん	3,380	3,150	3,650	4,090	3,950	0.6	17	132	519
	な す	2,670	2,960	1,840	1,590	1,450	0.4	46	96	812
	は く さ い	7,510	7,820	5,480	4,210	4,170	0.4	39	138	867
た ま ね ぎ	3,830	6,220	3,190	2,370	2,200	0.2	34	85	1,131	
や ま の い も	4,310	6,540	3,830	2,220	2,050	1.2	-	75	-	
葉 た ば こ	3,329	2,818	1,510	960	855	1.7	15	341	442	
果 実	二 十 世 紀 梨	72,600	73,200	40,100	26,700	23,200	49.6	1	1,040	3,994
	ぶ ど う	1,510	2,510	1,800	1,050	1,070	0.5	23	116	252
	か き	5,310	6,100	5,010	4,150	4,080	1.5	-	397	1,369
	り ん ご	64	428	858	511	553	0.1	-	62	198
ま ゆ	216	41	1	-	-	-	-	-	-	
畜 産	肉 用 牛 ( 頭 )	11,270	14,807	12,696	12,016	11,397	0.9	31	-	920
	生 乳 ( t )	34,342	50,159	59,306	61,082	62,752	0.7	28	-	330
	肉 豚 ( 頭 )	122,712	193,917	127,596	126,537	127,498	0.8	29	-	62
	ブ ロ イ ラ ー ( 千 羽 )	10,281	15,296	11,415	11,853	12,040	2.0	10	-	36
	鶏 卵 ( t )	16,230	16,566	12,496	10,266	10,458	0.4	41	-	36
花 き	芝 ( 千 m <sup>2</sup> )	8,465	6,061	11,325	6,565	5,777	-	-	834	1,080
	ス ト ッ ク ( 千 本 )	-	594	2,454	4,340	4,390	-	-	20	269
	り ん だ ょ う ( 千 本 )	1,487	925	1,972	765	700	-	-	6	43

資料：農林水産省「青果物生産出荷統計調査」、「畜産基本調査」、「農林業センサス」その他、農林水産部調べ。  
二十世紀梨の生産農家数は日本なしの数値

市町村別農業産出額（平成16年）

区 分	農 業 産出額	生産 農業 所得	農家1戸 当たり 生産農 業所得	農業産出額上位3部門						
				順位	第1位		第2位		第3位	
					農産物名	農業 産出額	農産物名	農業 産出額	農産物名	農業 産出額
県 計	721	233	652	-	米	169	な し	68	生 乳	59
鳥 取 市	1172	382	420	18	米	184	な し	160	鶏 卵	104
米 子 市	538	210	604	11	ね ぎ	174	米	123	葉たばこ	51
倉 吉 市	532	193	672	9	米	134	す い か	92	生 乳	53
境 港 市	109	43	995	4	ね ぎ	41	鶏 卵	20	だ い こ ん	14
岩 美 町	113	36	313	21	米	61	ブロイラー	x	豚	x
郡 家 町	150	47	430	17	米	50	な し	29	生 乳	21
船 岡 町	54	18	301	23	米	27	生 乳	5	ね ぎ	4
八 東 町	116	34	413	20	米	32	な し	29	か き	17
若 桜 町	43	13	250	26	米	18	豚	x	だ い こ ん	6
智 頭 町	56	23	222	27	米	35	肉 用 牛	x	り ん ど う	2
三 朝 町	83	30	313	21	米	36	な し	16	生 乳	9
関 金 町	115	39	635	10	米	40	な し	20	生 乳	18
北 条 町	217	77	960	6	葉たばこ	42	ぶ ど う	32	米	29
大 栄 町	601	250	2,545	1	す い か	206	生 乳	46	やまのいも	45
湯 梨 浜 町	297	90	537	14	な し	151	米	55	ブロイラー	x
琴 浦 町	958	243	1,135	2	ブロイラー	x	生 乳	153	な し	116
岸 本 町	125	37	488	15	米	44	ブロイラー	x	生 乳	8
日 吉 津 村	19	7	273	25	米	9	ね ぎ	3	きやえんどう	1
淀 江 町	187	38	587	12	ブロイラー	x	米	38	ひな(市町村販売)	x
大 山 町	261	87	793	7	生 乳	73	米	70	葉たばこ	25
名 和 町	430	98	993	5	豚	163	ブロイラー	46	米	38
中 山 町	283	93	1,108	3	生 乳	52	な し	41	米	34
南 部 町	220	63	433	19	米	76	豚	x	な し	10
日 南 町	313	87	685	16	米	87	ブロイラー	x	豚	x
日 野 町	43	17	275	8	米	22	生 乳	x	肉 用 牛	4
江 府 町	88	38	542	24	米	40	だ い こ ん	16	生 乳	x
溝 口 町	87	35	415	13	米	41	肉 用 牛	10	ね ぎ	10

資料：農林水産省「生産農業所得統計」

注1：市町村は平成16年12月31日現在。xは秘密保護上、統計数値を公表しないもの。

## (2) 水田農業構造改革対策

平成16年度からスタートした水田農業構造改革対策は、「主要食糧の需給及び価格の安定に関する法律（新食糧法）」、「米政策改革大綱」及び「米政策改革基本要綱」に基づき、「米づくりの本来あるべき姿」の実現を目指して、需要に即応した売れる米づくりの推進、担い手の育成による水田農業の構造改革の推進、水田の利活用と麦・大豆の本作化の促進等が平成18年度までの3年間実施される。

本県では、地域の作物戦略・販売、水田の利活用、担い手の育成等の将来方向を明確にした「地域水田農業ビジョン」を、全市町村域の37地域協議会が平成16年4月に作成した。

そして、平成16年度の取り組みをふまえ、各地域で点検や見直しを行いながら、ビジョンの実現に向けて、水田農業構造改革交付金（産地づくり対策・稲作所得基盤確保対策）、麦・大豆品質向上対策、耕畜連携対策、担い手経営安定対策、数量調整円滑化推進事業等を活用し、

- ①米の生産調整
- ②需要に応じた売れる米づくり
- ③地域の特色を生かした産地づくり
- ④水田農業の構造改革（担い手の育成等）

等の取り組みを推進している。

### 生産調整実施状況

単位：ha、t、%

区 分		水田農業構造改革対策			
		16年度		17年度	
		面積	割合	面積	割合
生産調整 取組 状況	生産目標数量(t)	76,130	—	75,820	—
	水稲作付目標面積①	14,794	—	14,766	—
	主食用水稲作付面積②	14,129	—	14,224	—
	達成率②／①	95.5	—	96.3	—
水稲 以外 の栽 培面 積	麦	72	0.8	69	0.8
	大豆	1,005	10.8	903	10.4
	そば	274	3.0	270	3.1
	飼料作物	861	9.3	859	9.9
	野菜	1,629	17.6	1,695	19.6
	その他	5,431	58.6	4,862	56.2
	計	9,272	100.0	8,658	100.0

注1：生産調整取組状況は市町村からの報告まとめ

注2：水稲以外の栽培面積は12月現在の集計結果

## (3) 有機農産物・特別栽培農産物

### 鳥取県の有機農産物、特別栽培農産物栽培面積

単位：ha

	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度
有機農産物	16.9	22.1	22.4	21.0
特別栽培農産物 (延べ団体数)	190.4 (30)	341.7 (62)	532.7 (123)	629.4 (125)

注：有機農産物栽培面積は、県が行う認定支援事業により認定を受けた団体の面積も含む。

#### (4) 主要農作物の生産

##### 米・麦・大豆

【米】6月が高温多照で分けつは旺盛だったが、穂にならない弱小茎が多かったため、出穂後の穂数が平年よりやや少なかったことが影響し、全もみ数は平年を下回った。また、出穂後の日照不足や8月15日以降の豪雨や台風第14号の影響でコシヒカリを中心に倒伏が発生したことなどから登熟は平年並みとなり、もみ数が少なかったことが作柄に影響し、作況指数98の510kg/10aであった。

なお、収穫作業は、天候に恵まれたため順調に進み、品質は昨年と比べて大幅に改善された。

【麦】茎数を確保できたことに加え、出穂期から成熟期に天候に恵まれたことで、収量・品質ともに近年にない良好な作柄となった。

【大豆】出芽後、生育も旺盛で順調に生育し、台風等の気象被害も少なかったことから作柄は良好であった。

なお、収穫作業は11月上旬までは順調に進んだが、11月中旬以降は雨天による収穫遅れのほ場が見られた。

##### 水稻・麦・大豆生産の推移

品目	区 分	単位	昭和55年	60	平成2年	7	12	15	16	17	
水稻	作付面積	ha	20,900	20,500	17,500	18,800	15,000	14,100	14,300	14,400	
	10a当たり収量	kg	364	487	496	528	536	464	485	510	
	収穫量	t	76,100	99,800	96,800	99,300	80,400	65,400	69,400	73,400	
	一 等 比 率		22.6	81.2	68.3	84.9	59.2	54.2	33.8	54.0	
	作況指数		78	101	101	108	105	89	93	98	
大豆	作付面積	ha	1,540	1,700	2,030	573	1,030	1,300	1,110	1,050	
	10a当たり収量	kg	111	164	83	177	153	158	105	176	
	収穫量	t	1,710	2,790	1,680	1,010	1,580	2,050	1,170	1,850	
麦	二条大麦	作付面積	ha	492	648	619	32	48	83	100	95
		10a当たり収量	kg	248	281	237	244	292	234	289	296
		収穫量	t	1,220	1,820	1,470	78	140	194	289	281
	六条大麦	作付面積	ha						24	25	21
		10a当たり収量	kg						258	296	233
		収穫量	t						62	74	49
	小麦	作付面積	ha	59	61	31	0	0	2	3	5
		収穫量	t	111	119	45	1	4	2	5	6
	計	作付面積	ha	551	709	650	32	50	109	128	121
		収穫量	t	1,330	1,940	1,515	79	144	258	368	336

資料：農林水産省調べ

##### 水稻・品種別作付面積(H17)

うるち米合計		コシヒカリ		ひとめぼれ		おまちかね		その他	
13,243ha	100%	8,232ha	62%	4,044ha	30%	242ha	2%	853ha	6%

資料：農林水産省調べ

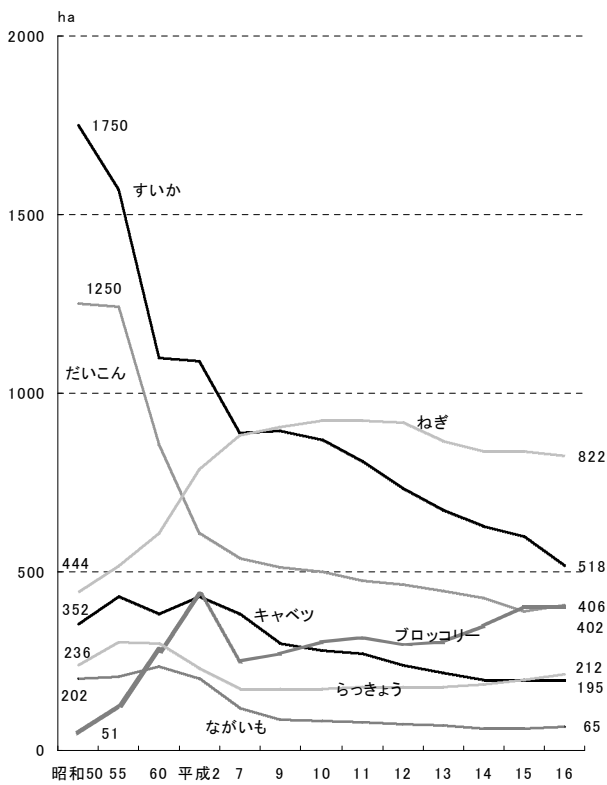
## (5) 野菜

本県野菜は大山山ろくの黒ぼく地帯、県東中部砂丘地帯及び県西部の弓浜砂丘地帯を中心に自然環境条件を活かした品目として、すいか、しろねぎ、らっきょう、ながいも、ブロッコリー、キャベツなどの産地化が図られている。

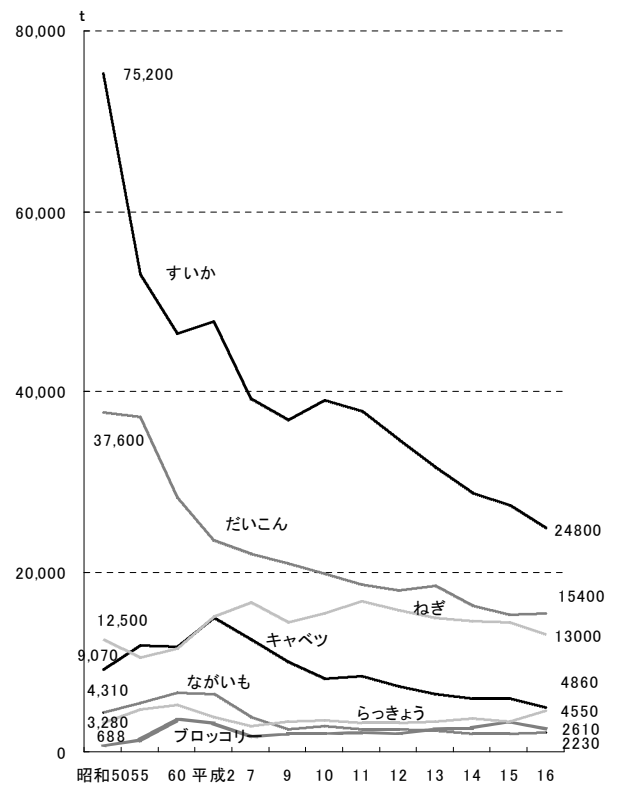
近年、高齢化の進展により生産農家が減少し、平成16年産野菜の作付面積は、4,730haで前年4,830haから約100ha減少した。このうち転作に係るものは1,629haで、全体の34%を占めている。

平成16年の主要野菜をみると、すいかは梅雨期の天候が良く、高温であったため、消費が順調で、販売額も前年より12%増加した。らっきょうは販売量が前年より9%増加したが単価が前年を下回ったため、前年とほぼ同じ販売額となった。また、ブロッコリーは台風の影響で販売量が減少したが、単価が前年を上回ったため、販売額は前年より8%増加した。白ねぎは面積の減少と台風の影響により販売量、販売額ともに昨年を下回った。

### 主要野菜の作付面積



### 主要野菜の収穫量

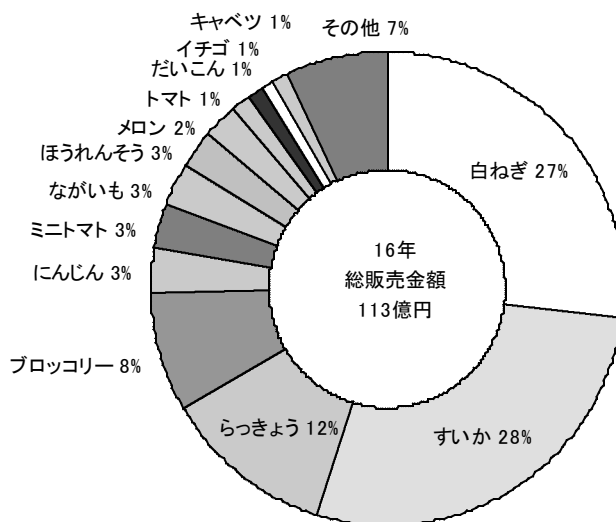


注：ながいも、H9までは「やまのいも」でカウント



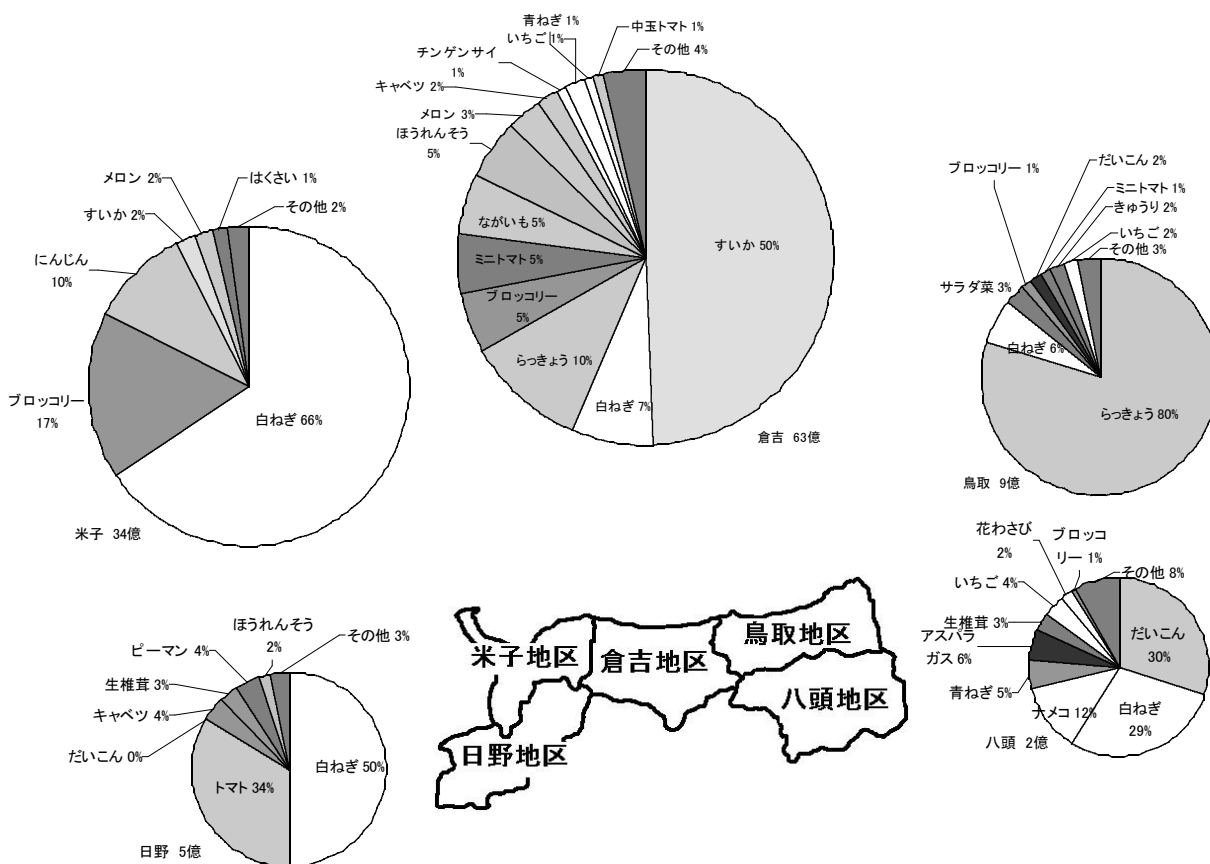
品目別販売額の割合（平成16年度実績）

～すいか、白ねぎで55%～



地域別販売金額（平成16年度実績）

～地域の特徴を活かした基幹作物～



### 主要野菜の販売実績の推移

単位：ha、百万円

	昭和50年		60年		平成2年		12年		14年		15年		16年	
	面積	販売額	面積	販売額	面積	販売額	面積	販売額	面積	販売額	面積	販売額	面積	販売額
すいか	1,144	4,012	813	5,237	777	4,905	574	4,087	509	3,101	441	2,841	379	3,194
白ねぎ	309	1,657	477	2,651	619	4,118	755	3,416	708	3,700	657	3,511	604	3,075
らっきょう	227	555	261	862	183	818	157	940	167	1,125	174	1,308	189	1,318
ブロッコリー	52	73	214	555	379	1,014	251	586	283	867	288	874	368	941
ながいも	118	573	177	1,103	143	845	51	317	38	288	39	309	42	292
だいこん	101	238	152	555	118	460	68	208	69	156	65	105	51	112
トマト	11	19	13	125	15	190	36	542	37	574	42	427	41	573
キャベツ	90	219	126	342	245	887	79	196	57	133	49	92	60	165
にんじん	118	573	48	184	92	371	118	310	79	334	80	191	70	332
いちご	119	476	55	553	40	345	9	129	11	103	9	120	9	117
アムスメロン	-	-	73	474	67	404	14	69	13	63	12	55	10	56
プリンスメロン	53	130	75	378	55	289	15	70	14	63	11	53	10	54

資料：全農とっとり（※平成13年以降のすいかについては、小玉すいかを含む）

### 施設園芸の推移

野菜…すいか（129ha）、メロン（30.2ha）、トマト（559ha）、ほうれん草（551ha）が主なもので、近年、すいか、ほうれん草の施設栽培面積が増加傾向にある。

果樹…ぶどう（815ha）、なし（692ha）、いちじく（29ha）で近年、特になしの施設栽培面積が減少している。

花き…花壇苗（27ha）、ストック（19ha）、ゆり（9ha）で集約的な施設栽培がなされている。

### ガラス室、ハウス、雨よけ施設の設置状況

単位：千㎡

年度区分 種類	平成10年度				平成12年度				平成14年度			
	ガラス室	ハウス	雨よけ	計	ガラス室	ハウス	雨よけ	計	ガラス室	ハウス	雨よけ	計
野菜	33	1,749	653	2,435	32	2,089	451	2,572	29	2,302	520	2,851
果樹	3	1,875	0	1,875	3	1,520	82	1,605	-	1,138	76	1,214
花き	18	332	63	413	17	453	122	592	12	270	77	359
計	54	3,953	716	4,723	52	4,062	655	4,769	41	3,710	673	4,424

資料：生産振興課調べ

## (6) 果樹

本県は、二十世紀梨を中心とする日本なしのほか、かき、ぶどうなど、ほぼ県下全域で落葉果樹の産地が形成されている。

このうち日本なしは、平成16年の結果樹面積で1,350haと全国の8.7%を占め、千葉県、茨城県に次ぎ全国三位の座にある。二十世紀梨は、本県日本なしの結果樹面積の76.3%を占めるとともに、全国の47.2%を占める本県の特産物として全国に名声を博している。また、輸出にも積極的に取組み、平成16年は東南アジア方面を中心に110千箱（1箱10kg入り）が輸出された。

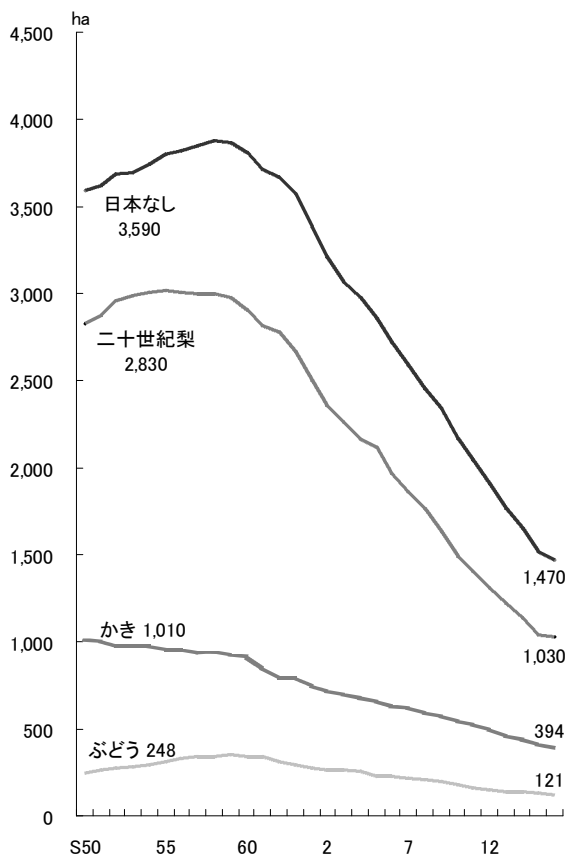
最近の栽培動向は、生産者の高齢化、労力不足、老木化等により二十世紀梨を中心に面積が減少しているが、一方で、黒斑病に強いゴールド二十世紀等への改植を進めており、園地の若返りが図られている。

ぶどうは、県中部の天神川河口周辺の砂丘地を中心に、県中部の黒ぼく地や県東部の水田などで栽培されている。結果樹面積は111haで、品種別に見ると、巨峰、デラウェアが全体の64.0%を占め、ピオーネがこれに続いている。

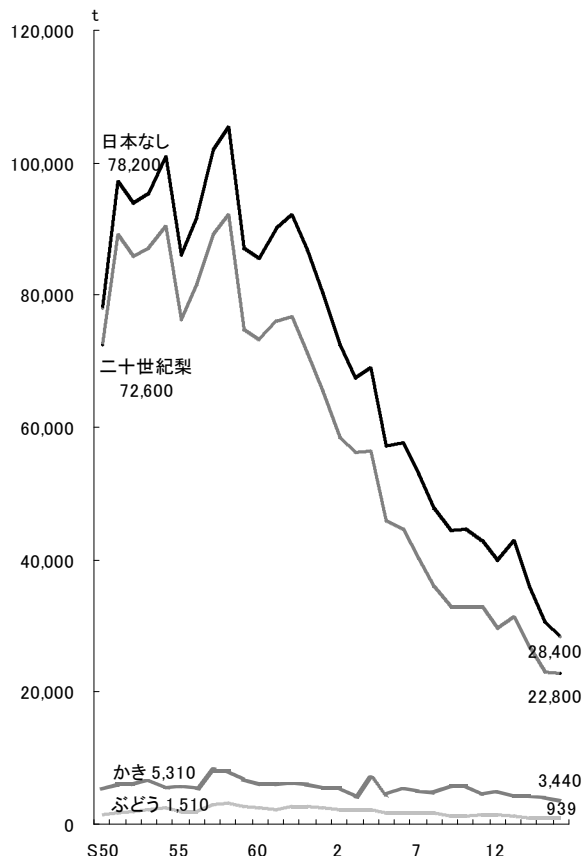
かきの結果樹面積は378haで、品種別では富有が42.3%、食味のよい西条が40.2%を占めている。

りんごは、大山山ろくの丘陵地や八頭郡の水田転換園を中心にわい化栽培が普及しているが、結果樹面積は横ばいの状況にある。

### 主要果樹の栽培面積



### 主要果樹の収穫量



※二十世紀梨は結果樹面積

## 果実生産の推移

単位：ha、t

区 分	昭和50年		60		平成2年		12		14		15		16	
	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量
日本なし	3,590	78,200	3,810	85,500	3,210	72,500	1,910	40,000	1,650	36,000	1,520	30,600	1,470	28,400
うち二十世紀梨	2,830	72,600	2,900	73,200	2,360	58,600	1,310	29,500	1,140	26,800	1,040	23,200	1,030	22,800
かき	1,010	5,310	920	6,100	717	5,560	495	5,000	438	4,150	411	4,080	394	3,440
うち富有・次郎	485	3,220	541	3,990	357	3,100	211	2,090	180	1,560	168	1,620	160	1,351
ぶどう	248	1,510	341	2,510	266	2,310	156	1,480	140	1,050	129	1,070	121	939
うち巨峰	34	159	123	1,020	110	1,010	65	600	53	399	47	427	44	370
デラウェア	32	288	103	889	70	648	37	370	31	297	29	294	27	252
りんご	17	64	99	428	126	968	81	576	68	511	65	553	55	298

資料：鳥取統計情報事務所「農作物調査」(果樹調査)

注：品種別栽培面積は、結果樹面積である。

## 二十世紀梨地域別輸出力の推移

単位：t、%

輸出先	昭和60年		平成2年		7		12		14		15	
	(果実連扱)	割合	(果実連扱)	割合	(県農扱)	割合	(全農扱)	割合	(全農扱)	割合	(全農扱)	割合
東南アジア	3,800	57.6	2,708	65.0	3,316	84.7	1,545	72.9	1,247	76.6	1,059	54.3
北 米	2,187	33.1	1,117	26.8	359	9.2	438	20.7	334	20.5	368	18.8
ヨーロッパ	497	7.5	236	5.7	112	2.8	69	3.3	14	0.9	0	0
中 近 東	105	1.6	14	0.3	14	0.4	22	1.0	0	0	0	0
そ の 他	14	0.2	91	2.2	115	2.9	44	2.1	34	2.1	526	26.9
合 計	6,603	100.0	4,166	100.0	3,916	100.0	2,118	100.0	1,629	100.0	1,953	100.0

資料：全農とっとり「果実の生産と販売結果」

昭和60年および平成2年は県果実連扱、平成7年は県連扱、平成12～15年は全農とっとり扱の量  
(全農扱=二十世紀梨数量)

## (7) 工芸作物

茶の生産は名和町、淀江町を中心に12ha栽培されている。

### 工芸農作物の推移

区 分		昭和50年	60	平成2年	7	12	14	15	16
葉たばこ	収穫面積 (ha)	1,324	1,138	715	538	385	364	341	318
	販売量 (t)	3,329	2,818	1,710	1,513	1,172	960	855	860
	10a当たり収量(kg)	251	248	239	281	304	264	251	270
茶	栽培面積 (ha)	44	40	32	21	12	11	11	12
	摘栽面積 (ha)	31	31	21	-	-	-	-	-
	生産量(生葉・t)	160	198	177	-	-	-	-	88
	10a当たり収量(kg)	522	639	833	-	-	-	-	800
	生産量(荒茶・t)	40	48	37	-	-	-	-	20

資料：葉たばこ「全国たばこ耕作組合中央会資料」、茶・農林水産省「茶生産量」

## (8) 花き・芝

切り花類は、全国でも有数であるストックの栽培、園芸試験場で開発したシンテッポウユリの抑制栽培、中山間地のりんどうの優良種苗育成導入などの取り組みがある。

花壇苗は県内における花の農業産出額第1位を占め、大規模生産者を中心に県内外に出荷されている。花壇苗の中心品目であるパンジーは全国第11位の出荷量がある。

球根類は日吉津村のチューリップ、花木類は智頭町のどうだんつつじや倉吉から大山町にかけての大山山麓を中心に多様な花木が栽培されている。

芝類は、栽培管理が徹底された高品質な芝として全国でも高い評価を受けている。主にゴルフ場や造園用などに出荷されている。

### 花き生産状況の推移

区分	昭和50年		60		平成2年		12		14		15		16	
	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量	栽培面積	生産量
切花類	ha 61	千本 13,144	ha 41	千本 9,663	ha 60	千本 14,760	ha 91	千本 20,019	ha 86	千本 19,700	ha 82	千本 18,500	ha 80	千本 17,700
鉢物類	1	74	2	131	3	576	2	87	2	142	2	172	2	195
花だん苗類	—	—	1	523	2	769	28	14,126	27	15,400	29	17,000	30	16,800
花木類	129	576	68	199	89	521	41	187	33	798	54	145	27	199
球根類	30	千球 4,482	16	2,977	13	3,720	5	497	4	408	2	175	2	181
芝類	948	千㎡ 8,465	659	千㎡ 6,061	1,494	千㎡ 12,188	983	千㎡ 6,945	962	千㎡ 6,565	834	千㎡ 5,777	796	千㎡ 5,720
合計	1,169	-	788	-	1,661	-	1,150	-	1,114	-	1,003	-	937	-

資料：H2年以前は、農林水産省「花き類の生産状況等調査」

H7年以降の切り花類・鉢物類・球根類は鳥取統計情報センター調べ、花木類・芝類は日本花き生産協会「花木等生産状況調査」芝の生産量欄の数値は年間の出荷量の数値である

## (9) 畜産

我が国の畜産業は昭和30年代以降、人口の増加及び所得の向上とともに順調な需要の伸びに支えられ発展してきた。

本県でも畜産農家数及び飼養頭羽数は急激に増加したが、昭和50年代になると生乳、豚肉、鶏卵は供給が需要を上回り、計画生産体制に移行することとなった。

本県の家畜飼養頭羽数は酪農では昭和40年代、肉用牛では昭和30年代、養豚、養鶏では昭和60年代をピークに減少している。

畜産農家数は各畜種とも小規模層を中心に減少傾向にあるものの、飼養規模の拡大に伴い一戸当たりの飼養頭数は増加し、専門化が進んでいる。また、鳥取県における平成16年の農業産出額（721億円）に占める畜産産出額は、224億円で31.1%となっている。

### 畜産生産の推移

区 分		単 位	昭 和 50 年	60	平 成 2 年	7	12	14	15	16
飼 養 頭 羽 数	乳用牛	頭	11,500	13,700	13,400	12,400	10,900	10,800	11,200	11,500
	肉用牛	頭	30,700	28,900	27,500	26,700	25,100	23,300	22,600	22,200
	豚	頭	88,000	115,800	120,500	86,800	74,400	72,000	73,700	73,300
	採卵鶏	千羽	1,000	940	825	666	598	569	540	612
	ブロイラー	千羽	2,076	3,350	2,862	2,595	2,470	2,663	2,430	2,381
生 産 量	生乳	t	34,342	50,159	56,611	59,306	62,100	61,082	62,752	—
	肉用牛	頭	11,270	14,807	13,883	12,696	11,134	12,016	11,397	11,946
	和牛	頭	3,074	4,500	3,559	4,370	4,004	4,432	4,092	4,199
	乳用種等	頭	8,196	10,307	10,324	8,326	7,130	7,584	7,305	7,747
	肉豚	頭	122,712	193,917	184,228	127,596	129,381	126,537	127,498	129,488
	鶏卵	t	16,230	16,566	14,737	12,496	10,516	10,266	10,458	11,727
ブロイラー	千羽	10,281	15,296	13,032	11,415	11,097	11,853	12,040	11,735	

資料：農林水産省「畜産統計」「牛乳乳製品統計」「畜産物流通統計」

注1：飼養頭羽数の採卵鶏は成鶏めす、ブロイラーは畜産課調べ

注2：生産量の平成12年は推計値（畜産課調べ）

注3：生産量の平成16年は調査未了

## 6 農家経済

平成16年の一戸当たりの農家所得は528万2,000円、農業所得は48万4,000円となった。

農家所得に占める農業所得の割合（農業依存度）は15.8%で、農外所得は258万円となった。

### 農家経済（販売農家1戸当たり）

区分	農業所得	農業生産 関連事業 所得	農外所得	年金等の 収入	農家所得	農業 粗収益	農業所得 率	農業依存 度
平成16年	千円 484	千円 —	千円 2,580	千円 2,218	千円 5,282	千円 2,263	% 21.4	% 15.8
全国	1,262	5	2,241	1,575	5,083	3,890	32.4	36.0

資料：農林水産省「農業経営統計調査」

注1：農家所得＝農業所得＋農業生産関連事業所得＋農外所得＋年金等の収入

注2：農業所得率＝農業所得÷農業粗収益×100

注3：農業依存度＝農業所得÷（農業所得＋農業生産関連事業所得＋農外所得）×100

# V 林業

## 1 特用林産物等紹介

### 鳥取県の特用林産物

中山間地域の貴重な収入源として、きのこ栽培をはじめ炭、わさび、おうれん、山菜類など多くの特用林産物が生産され、地域の就労と定住に大きく貢献している。

きのこ、山菜、炭などは、近年の地産地消推進により地域産物の消費が高まってきており、生産量の増大と生産意欲の向上が期待される。

代表特用林産物：乾・生しいたけ（県下全域で生産）・エリンギ・根わさび・オガ炭（全国で上位の生産量）

### 主な特用林産物の生産量と全国のシェア（H16）

区 分	鳥 取 県			全 国 実数（t）	1 位	2 位	3 位
	実数（t）	順位	シェア				
乾しいたけ	30.5	18	0.7%	4,135.1	大分県	宮崎県	愛媛県
生しいたけ	169.8	46	0.3%	66,203.8	徳島県	群馬県	岩手県
エリンギ	451.7	10	1.1%	42,357.2	新潟県	福岡県	長野県
根わさび	63.1	3	5.7%	1,105.4	長野県	静岡県	鳥取県
オガ炭	2,143	1	24.0%	11,270	鳥取県	奈良県	島根県

資料：林政課調べ

### 主な特用林産物の出荷先

乾しいたけ：県内業者及び東京市場

生しいたけ：県内市場

エリンギ：県内及び東京都・広島県

根わさび：長野県（加工用）

オガ炭：県内及び全国



### 鳥取県の県産材

鳥取県は、慶長杉に代表されるように八頭郡で古くからスギが造林され、智頭林業スギ、若桜林業として、全国に知られ、良質のスギを生産している。一方、大山を中心として、松の良材が多く、大山マツ林業として、良質の松材を生産してきたが、近年は、松くい虫の被害により、生産量が減少している。

また、戦後、日野地方を始め県内各地で盛んに造林された人工林が育ち、収穫期を迎えようとしている。

### 素材生産量と全国シェア（H16）

区 分	鳥 取 県			全 国 実数	1 位	2 位	3 位
	実数	順位	シェア				
合計（千m <sup>3</sup> ）	136	32	0.87%	15,615	北海道	宮崎県	岩手県
針 葉 樹	109	32	0.83%	13,167	北海道	宮崎県	熊本県
スギ	71	30	0.95%	7,491	宮崎県	大分県	熊本県
ヒノキ	11	29	0.55%	2,004	愛媛県	岡山県	高知県
マツ	27	7	3.31%	816	岩手県	広島県	島根県
広 葉 樹	27	18	1.10%	2,448	北海道	岩手県	福島県

資料：木材需要報告書



## 2 林業の概要

本県の森林は258千haで、県土の約74%を占める。また、民有林の54%がスギ・ヒノキなどの人工林（122千ha）で、そのうち80%が手入れが必要な45年生以下の森林である。

最近では、森林の持つ水源のかん養、県土保全、二酸化炭素の吸収及び保健休養の場の提供などの公益的な働きが注目されている。

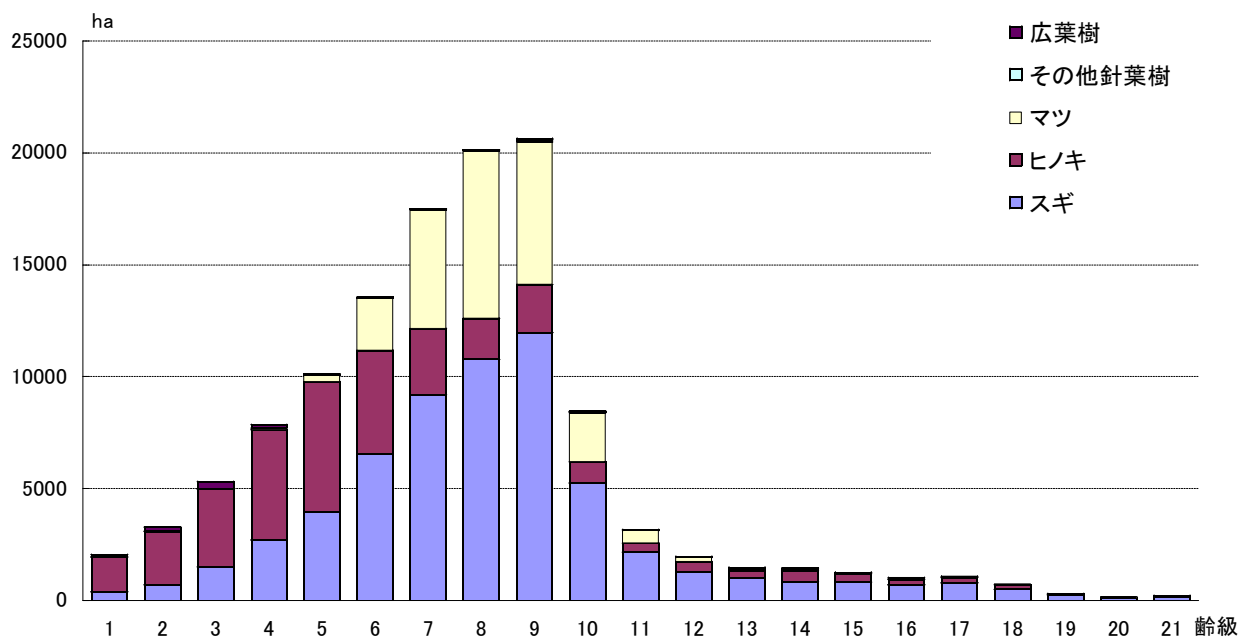


### 鳥取県の森林面積

区 分	総 面 積	森林面積	林 野 率	内 訳		
				国 有 林	民 有 林	民有林の人工林率
全 国	37,791	24,918	66%	7,384	17,534	46%
鳥 取 県	351	258	74%	32	226	54%

資料：「鳥取県林業統計」（平成16年版）

### 民有林人工林面積の構成（平成16年度）



### 〈現状と課題〉

- 森林資源は充実してきた一方、木材価格の低迷、担い手の減少・高齢化等により林業生産活動の停滞と手入れの遅れた森林が増加
- 木材需要及び県産材の利用が低迷。

項 目	平成2年度(A)	平成16年度(B)	B/A
木 材 価 格	23.5千円/m <sup>3</sup>	8.2千円/m <sup>3</sup>	35%
林 業 生 産 額	77億円	27億円	35%
林 業 就 業 者 数	1,293人	897人	48%
うち65歳以上の割合	15%	30%	200%
素 材 需 要 量	469m <sup>3</sup>	399m <sup>3</sup>	85%

## 〈今後の取組み〉

### ○県産材の利用拡大

- ・県産材を利用する事業者の連携を深め、産地証明制度等の普及、県産材を活用した木造住宅建設への助成、公共施設・公共土木工事への利用等による県産材の利用拡大
- ・再生産が可能で、加工しやすく炭素を長期間貯蔵できるなど、環境にやさしい木材の積極的な利用に対する県民理解の醸成

### ○木質バイオマスの利用推進

- ・林地残材、製材工場残材等をエネルギーとして利用することによる木材の利用推進と有効利用

### ○森林整備の推進

- ・森林を3区分し、機能に応じた適切な森林施業の実施

区 分	内 容	面積割合
①水土保全林	水源かん養機能等を重視した森林	85%
②森林と人との共生林	森林体験活動の場等としての森林	3%
③資源の循環利用林	木材等の生産を重視する森林	13%

- ・森林所有者が山の手入れを進めるために行う森林現況調査などに、ヘクタール当たり1万円を交付金として支援
- ・効率的かつ適切な森林整備と林業生産コストの削減のため、林道、作業道等の路網整備と高性能機械の導入を推進  
林内道路密度：20.0m/ha（現状）→21.3m/ha（目標）

### ○林業の担い手確保

- ・県産材の需要拡大と森林整備の推進による事業量の確保
- ・林業労働者の雇用条件の改善、技術・技能の向上等に引き続き助成

### ○新たな森づくりの推進

- ・県民共通の財産である森林の公益的機能を持続的に発揮させるため、森林環境保全税により、森林の機能回復に重点を置いた施策や、森林体験等を実施し、森林環境の保全及び森林をすべての県民で守り育てる意識の醸成を図る。
- ・環境貢献意識の高い企業や労働組合、NPO等民間団体の活動意欲が注目される中、こうした動きを県内の森林フィールドに向けていただき、森林林業の活性化につなげる。

## 鳥取県の森林評価額

単位：億円

機能の種類	水源かん養		県土の保全		地球環境保全		保健・レクリエーション	
評 価 額	降水の貯留	1,137	表面浸食防止	3,689	二酸化炭素吸収	127		
	洪水の防止	686	表面崩壊防止	866	化石燃料代替	11		
	水質の浄化	1,485						
総 額 8,227	計	3,308	計	4,555	計	138	計	226

注：日本学術会議答申「地球環境・人間生活にかかわる農業及び森林の多面的な機能の評価について」（平成13年11月）から鳥取県分を試算したもの。

### 3 森林の整備・保全

#### 森林の整備

造林面積は、昭和36年をピークに減少を続けており、近年の造林樹種をみると、ヒノキがその大半を占めている。

現在、戦後造林されたスギ、ヒノキなどの人工林が間伐時期を迎えているが、林業採算性の悪化等により林業生産活動も停滞し、手入れ不足の森林が増加している。

今後、公益的機能の発揮に対する要請および多様な木材需要に対応するためには、適切な間伐などの保育の実施が求められている。

#### 造林保育の実績

区 分		昭和 55年次	60	平成2年	12	14	15	16	前年対比 <sup>(%)</sup> 16/15年
人工 造 林	再 造 林	(-)	(-)	(66)	(28)	(2)	(3)	(4)	133.3%
	拡 大 造 林	75	104	142	100	48	39	59	146.2%
	計	1,562	1,334	732	451	366	323	309	95.7%
	計	1,637	1,438	874	551	414	362	366	101.1%
保 有	下 刈 り	7,458	7,331	6,195	2,594	2,316	1,662	1,405	84.5%
	雪 起 こ し	1,010	1,774	689	1,072	366	349	297	85.1%
	除 間 伐	2,160	1,684	1,296	2,505	2,546	1,941	1,854	95.5%
	計	10,628	10,789	8,180	6,171	5,228	3,952	3,556	90.0%
合 計		12,265	12,227	9,054	6,722	5,642	4,314	3,922	90.9%

資料：森林保全課調べ

注：「保育」は、補助及び融資に係る面積である。

(-) 書きは複層林造成面積で内数である。

#### 森林の保全

森林の公益的機能の維持向上を図るため、非皆伐施業(注)や間伐、枝打ちの実施など総合的な保全対策に取り組むとともに、保安林の整備、復旧、予防等の治山事業、松くい虫等の森林病害虫の防除などを実施している。(注：森林の樹木を一度に全部伐採せず、部分的・単木的に伐採すること)

保安林については、森林面積の53%を占めており、全国平均45%を上回っている。

治山事業については、森林整備保全事業計画（平成16年度～平成20年度）に基づき計画的な推進を図っている。

一方、松くい虫による被害は、伐倒駆除・特別伐倒駆除、地上散布、特別防除等総合的な防除を実施したことにより、平成16年度の被害は21,727㎡となり、ピーク時であった昭和54年度の18%まで減少している。

#### 保安林の現況（平成16年度末）

区 分	森林 面積	保安林	1 ～ 3 号 保 安 林			4 号 以 下 保 安 林	森林面積に 対する比率
			水源かん養	土砂流出防備	土砂崩壊防備		
総 数 ( h a )	255,447	137,032	121,618	10,537	2,185	2,692	53.0%
同上構成比(%)		100.0	88.8	7.6	1.6	2.0	—
民 有 林 ( h a )	226,169	106,471	93,635	8,415	2,178	2,243	47.1%
国 有 林 ( h a )	32,278	30,561	27,983	2,122	7	449	94.7%

資料：森林保全課調べ

注：兼種保安林については、上位の保安林面積に含まれる。

## 森林と人とのふれあい

気軽に森林とふれあう場として、多くの県民に森林公園「とっとり出合いの森」が利用されている。また、森林の多面的機能と林業の果たす役割について県民の理解を深めるため、各種イベントを開催している。「日野川の源流と流域を守る会」等、森林の重要性について考え、実際に行動する県民の自発的な取り組みも行われている。森林環境保全税を活用した森林体験企画への多数の応募・参加などから、県民の森林に対する関心が高まりつつある中で、10月8日の「木の日」を中心として森林林業に関するイベント等を、集中実施する「とっとり森林月間」を設置、森林・林業の活発な活動を情報発信する。

## 4 林業の担い手と生産基盤の整備

### 担い手

#### 木材登録業者数

区 分	昭和50年次	60	平成2	7	12	14	15	16
業 者 数 ( 人 )	372	345	314	237	189	182	162	197
素材生産業者数(人)	—	225	229	149	105	97	84	94

資料：林政課調べ

#### 林業就業者数の推移

区 分	昭和50年	55	60	平成2	7	12
林 業 就 業 者 数 ( 人 )	2,104	1,925	1,605	1,293	1,264	897
50歳以上の占める割合(%)	43	54	66	74	73	68

資料：国勢調査

#### 生産基盤の整備

林道は、平成16年度には8.9kmが開設され、その総延長（平成16年度末）は、1,057kmで林道網整備計画目標の42%である。

今後も森林整備推進、生産コストの低減及び山村地域振興を図るため、林道の整備を推進することとしている。また、さらなる、低コスト林業生産を推進するための作業道整備及び、平成18年度から間伐対象森林を団地化し高密度路網整備を行う鳥取式作業道の整備を推進する。

#### 林内路網の整備状況

##### (1) 整備目標と現況（平成16年度末現在）

林 道 密 度 (m/ha)		林 道 延 長 (km)		整備進捗率 (%)
目 標	現 況	目 標	現 況	
11.0	4.7	2,491	1,057	42

注：林道密度、林道延長の目標値は、「民有林林道網整備計画」(H10.6策定)による。

##### (2) 鳥取県の林内路網密度（平成16年度末現在）

森林面積 (A) (ha)	林 内 道 路 延 長 (km)					林内路網密度 (B/A) (m/h)
	公 道	林道(自動車道)	林道(軽自動車道)	作 業 道	計 (B)	
226,169	2,351	1,057	126	990	4,524	20.0

資料：森林保全課調べ

### 森林基幹道、緑資源幹線林道の進捗状況

区 分	路 線 名	該 当 市 町 村 名	全 体 計 画 延 長 (m)	平 成 16 年 度 末 開 設 延 長 (m)	進 捗 率 (%)
森 林 基 幹 道	田 河 内 蒲 生	岩美町	14,770	9,929	67.2
	桑 原 河 内	鳥取市	14,450	9,782	67.7
	因 美	智頭町	10,200	2,293	22.5
	窓 山	日南町	17,100	4,903	28.7
	行 者 山	南部町	22,900	9,402	41.1
	宝 仏 山	日野町、江府町	22,400	6,848	30.6
	南 三 朝	三朝町	12,479	11,852	95.0
	山 守 矢 送	倉吉市	36,900	6,231	16.9
	中 ノ 津	智頭町	27,000	5,413	20.0
	根 安 春 米	若桜町	17,350	14,593	84.1
	籠 山	鳥取市、智頭町	25,750	15,759	61.2
緑資源幹線林道	若桜・江府	若桜町、智頭町、鳥取市、 三朝町、倉吉市	78,000	45,320	58.1
	日野・金城	日野町、伯耆町	11,649	11,649	100.0

## 5 木材需要と木材産業

### 木材需給

県内の木材需要量は、平成16年は39万9千 $\text{m}^3$ で、需要量の用途別割合をみると、製材用35%、木材チップ用11%、合板用53%となっている。

一方、県内素材生産量は13万6千 $\text{m}^3$ で、針葉樹10万9千 $\text{m}^3$ 、広葉樹2万7千 $\text{m}^3$ となっている。

### 素材の需給の推移

区 分	昭和50	60	平成2	7	12	14	15	16	前年対比
需 要 量(千 $\text{m}^3$ )	688	512	469	319	366	374	367	399	108.7%
外材比率(%)	56.4	46.3	54.2	54.5	70.2	70.1	71.4	74.2	—
生 産 量(千 $\text{m}^3$ )	309	321	265	192	132	135	161	136	84.5
針葉樹(千 $\text{m}^3$ )	220	226	174	159	110	110	121	109	90.1
広葉樹(千 $\text{m}^3$ )	89	91	91	33	22	25	40	27	67.5

### 木材産業

木材加工工場

区 分	昭和50	60	平成2	7	12	14	15	16	前年対比
製 材 工 場 数	249	196	165	141	108	102	94	89	94.7%
素材消費量(千 $\text{m}^3$ /年)	487	355	319	224	162	144	139	137	98.6
製品生産量(千 $\text{m}^3$ /年)	347	256	215	150	102	92	88	84	95.5
木 材 チ ッ プ 工 場	48	33	28	20	13	13	12	13	108.3
チップ生産量(千 $\text{m}^3$ /年)	85	127	125	80	56	57	61	64	104.9
合 板 工 場 数	3	2	1	1	1	1	1	1	100.0
生産量( $\text{m}^3$ /年)	10,976	6,243	6,877	6,060	7,661	10,580	11,200	12,000	107.1
集 成 材 工 場 数						2	2	2	100.0
生産量( $\text{m}^3$ /年)						1,484	1,394	1,566	112.3

資料：林政課調べ

### 新設住宅着工戸数の推移

平成16年の新設住宅着工数は、4,760戸で、そのうち木造住宅は、2,317戸（木造率：48.7%）となっている。

単位：戸、%

区 分	昭和50	60	平成2	7	12	14	15	16	前年対比
総戸数	6,329	3,606	6,068	5,626	5,115	4,798	4,299	4,760	110.7
内 木 造	4,539	2,149	2,899	2,997	2,349	2,095	2,231	2,317	103.9
内 非 木 造	1,790	1,457	3,169	2,629	2,766	2,703	2,068	2,443	118.1
木造率(%)	71.7	59.6	47.8	53.3	45.9	43.7	51.9	48.7	

資料：建築統計年報

## 6 山村社会

### 保有山林規模別林家数

単位：戸、%

区 分	林 家 数		増減数(戸)	構 成 比(12年)%	
	平成2年	平成12年		鳥 取 県	全 国
総 数	29,623	14,110	—	100.0	100.0
0.1 ～ 5ha	13,825	*	—	—	—
1 ～ 5	11,878	10,651	△ 1,227	75.5	74.7
5 ～ 10	2,263	1,924	△ 339	13.6	13.7
10 ～ 50	1,543	1,429	△ 114	10.1	10.6
50 ～ 100	81	78	△ 3	0.6	0.7
100 ～	33	28	△ 5	0.2	0.3

資料：1990年、2000年農林業センサス

注：「\*」については、統計調査の変更により、数値がないもの。

### 特用林産物生産の推移

区 分		単位	昭和50	60	平成2	7	12	14	15	16	対比(%) 16/15年
生 産 額		百万円	801	1,837	2,255	1,793	1,204	2,311	1,880	1,524	81.1
主 要 品 目 別 生 産 量	乾しいたけ	t	1040	178	167	137	53	36	29	31	106.9
	生しいたけ	t	351	455	373	304	209	180	183	170	92.9
	なめこ	t	68	43	66	124	181	152	142	155	109.2
	えのきたけ	t	103	458	827	940	523	305	322	280	87.0
	ひらたけ	t	19	102	230	155	27	21	11	20	181.8
	エリンギ	t	—	—	—	—	—	365	365	452	123.8
	木炭	t	200	253	70	75	53	51	62	69	111.3
	おうれん	t	3.0	5.4	2.3	0.2	0.5	0.4	0.4	0.5	125

資料：林政課調べ

注：生産額には、主要品目以外の特用林産物も含む。

# VI 水産業

## 1 主要水産物紹介

### 【ズワイガニ】

#### ○鳥取県のズワイガニ

鳥取県ではズワイガニの雄を“松葉がに”、雌を“親がに”、脱皮直後の雄を“若松葉”と呼び、県を代表する冬の特産物となっています。

11月初旬から沖合底引き網漁業で水深200m付近で漁獲されます。漁業者はズワイガニの資源を増やすため、漁期や漁獲サイズの制限等の資源管理に積極的に取り組んでいます。



#### ○代表漁港

境漁港、鳥取港、網代漁港、田後港

#### ○ズワイガニの漁獲量と全国シェア：2位、22.1%

漁獲量（トン）		1位	2位	3位	4位	5位
鳥取	全国					
1,206	5,454	兵庫県	鳥取県	北海道	福井県	石川県

（農林水産省：平成15年漁業・養殖業生産統計年報）

#### 【カニの消費量】

全国県庁所在地及び政令指定都市のカニ消費量を比べると鳥取市は1人当たりの消費量は全国第1位で、全国平均の約6倍です。このことから、カニ好きな県民性が伺えます。

単位：g

1位	2位	3位	4位	5位
鳥取市	金沢市	大阪市	盛岡市	札幌市
6,141	2,803	2,383	1,727	1,579

（総務省：平成16年家計調査年報）

\* 全国平均：960 g

### 【イワガキ】

#### ○鳥取県のイワガキ

大きいものは長さ20cm、重さに至っては約1kg。日本海の海の滋味を詰め込んだイワガキは夏の主役です。素潜りやボンベ潜水で漁獲され、有名な夏泊の海女漁の重要な漁業対象種です。

冬に食べるマガキと比べ、夏の産卵期を迎え、丸々と身が太り味が良くなり、「海のミルク」と称されています。現在、型の良い通称“平ガキ”について一部の地域でブランド化（夏輝）を進めています。



#### ○代表漁港

淀江漁港、赤碕港、網代漁港、泊漁港、夏泊漁港



## 【ハタハタ】

### ○鳥取県のハタハタ

意外と知られていませんが、実はハタハタは鳥取県を代表する水産物で国内3位の漁獲量を誇ります。

朝鮮半島東岸で生まれ、はるばる山陰沖まで回遊し成長したものを沖合底びき網で漁獲します。



### ○代表漁港

鳥取港、網代漁港、田後港

### ○ハタハタの漁獲量と全国シェア：3位、14.9%

漁獲量（トン）		1位	2位	3位	4位	5位
鳥取	全国					
2,292	15,395	兵庫県	秋田県	鳥取県	石川県	北海道

（農林水産省：平成15年漁業・養殖業生産統計年報）

## 【ベニズワイガニ】

### ○鳥取県のベニズワイガニ

ベニズワイガニはかご網で漁獲され、境漁港は全国1位の水揚げを誇ります。

境港にはベニズワイガニの加工場が多く、加工製品として多様に使われています。さらに、カニの甲羅に多く含まれるキチン・キトサンは医薬品や健康食品に利用されています。



### ○代表漁港 境漁港

### ○ベニズワイガニの漁獲量と全国シェア：1位、23.2%

漁獲量（トン）		1位	2位	3位	4位	5位
鳥取	全国					
4,184	18,041	鳥取県	島根県	北海道	兵庫県	新潟県

（農林水産省：平成15年漁業・養殖業生産統計年報）

## 【クロマグロ】

### ○鳥取県のクロマグロ

平成15年に鳥取県は水揚量全国1位を記録しました。

クロマグロは6月から8月にかけて産卵のため日本海に來遊します。この時期を狙って、様々な県のみき網漁船が島根から新潟沖でクロマグロを漁獲し、その大半を境漁港へ水揚げします。これは、境漁港は日本海側で唯一、マグロを大量かつ素早く処理できるなどの水揚げ体制が整っているためです。

現在、境港ではクロマグロの夏場の観光の目玉の1つとして地域活性化に生かそうと取り組んでいます。その取り組みの1つとして、クロマグロを使った加工品の開発も急ピッチで進められています。



### ○代表漁港 境漁港

### ○クロマグロの漁獲量と全国シェア：1位、19.5%

漁獲量（トン）		1位	2位	3位	4位	5位
鳥取	全国					
2,228	11,424	鳥取県	宮城県	高知県	青森県	三重県

（農林水産省：平成15年漁業・養殖業生産統計年報）

## 2 水産業の概要

本県の沿岸は、凸凹、起伏が少ない単調な海岸線であり、海底も天然礁が東部と西部に存在するほかは、変化に乏しい砂浜が多くを占めている。このため、有用水産資源の再生産や漁場形成に恵まれず、また、沖合は対馬暖流と山陰若狭沖冷水の消長等の海況の変化により、回遊魚の移送、接岸が左右される等、一般的に漁場形成が不安定であること、冬期風浪による出漁の制約等漁業生産活動が自然条件に阻害されることなどから、漁業生産の年変動は大きくなっている。

本県の海岸線の総延長は129 kmで、現在5つの沿海漁業協同組合がある。平成8年7月に鳥取県信用漁業協同組合を中心とした沿海漁協の信用事業を統合し、また、14あった沿海漁協のうち平成10年4月には東部5漁協が合併し鳥取中央漁協となったのを初めに、平成15年7月に県下の9漁協が合併し、鳥取県漁協となり（10月に1漁協追加）、16年2月には漁連を包括承継した全県規模の漁協が誕生した。なお、5つの沿海漁業協同組合以外に業種別漁業協同組合が3組合、内水面漁業協同組合が3河川2湖沼に5組合ある。

本県漁業を取り巻く情勢は、国連海洋法条約や新日韓新漁業協定の発効等、新海洋秩序による漁業管理体制が構築されつつある中で、漁場環境の悪化、水産資源の減少、漁業労働力又は後継者不足及び高齢化、輸入水産物の増大による魚価の低迷、エチゼンクラゲの大量来遊、燃油高騰等依然として厳しい状況にある。

本県漁業は、漁船漁業が主体となっており、刺網漁業、小型底曳網漁業、釣漁業を主体とした沿岸漁業と大中型まき網漁業、沖合底曳網漁業等を主体とした沖合漁業に分けられる。また、最近では、港湾を利用したワカメ養殖や休耕田を利用したホンモロコ養殖など養殖業にも新しい動きがみられる。

このような状況にあって、①意欲ある担い手づくり、②地域の核となる水産業の体質強化、③技術の開発と普及、④漁業団体の体制整備、⑤自然環境（漁場）の保全、⑥漁場の整備、⑦沿岸漁業経営の改善を施策の柱として、新海洋秩序に対応できる水産業の体質強化と活気に満ちた漁村の実現に取り組んでいる。

### 主な漁業種類の経営体数の推移

単位：経営体

区分	漁業種類	昭和50年	60	平成2年	7	12	15	16
沿岸漁業	小型底曳網漁業	165	152	145	143	103	82	83
	刺網漁業	413	404	368	289	197	187	205
	沿岸いか釣漁業	540	703	571	501	528	626	585
	船びき網漁業	9	103	25	5	10	4	4
沖合漁業	沖合底曳網漁業	56	55	50	45	37	30	29
	大中型まき網漁業	9	7	4	4	3	2	2
	近海いか釣漁業	109	39	21	19	11	7	6
	べにずわいがに漁業	15	16	13	9	8	8	7

資料：鳥取農林水産統計年報

注：沿岸いか釣漁業、近海いか釣漁業、べにずわいがに漁業は漁労体数（単位：統）を示す。

### 経営階層別経営体数の推移

単位：経営体

区分	年次	昭和50年	60	平成2年	7	12	15	16
総	経営体数	1,334	1,453	1,247	1,087	954	946	966
漁	船非使用	98	714	53	39	39	26	19
無	動力船	25	6	3	3	1	4	1
動力船	0～1t	421	421	397	352	275	308	330
	1～3	318	244	204	173	150	146	159
	3～5	247	371	344	302	299	292	283
	5～10	44	177	112	90	80	83	81
	10～20	6	19	23	28	30	20	26
	20～50	18	8	8	7	9	6	7
	50～100	75	69	49	42	39	32	31
	100～500	9	17	15	15	11	8	8
	500t以上	8	4	4	4	3	3	2
	小計	1,146	1,330	1,156	1,013	896	898	927
定	置網	7	5	6	4	3	3	3
地	びき網	56	37	19	16	6	9	7
海	面養殖	2	4	10	12	9	6	9

資料：鳥取農林水産統計年報（「漁業センサス（平5.10）」及び「漁業動態調査」の結果による。）

### 海面漁業生産量及び生産額の推移（属人）

区分	年次	昭和50年	60	平成2年	7	12	15	16
生産量(千トン)		156.4	328.6	344.3	156.9	77.8	77.4	60.4
伸長率(%)		100	209	219	100	50	49	38
生産額(百万円)		15,276	22,786	23,054	22,162	16,808	15,987	16,046
伸長率(%)		69	103	104	100	76	69	72

資料：鳥取農林水産統計年報

### 日本海最大の漁業基地の境港

境港は、隠岐島周辺の好漁場に近く、また島根半島による天然の防波堤に恵まれ、古くから漁業の町として栄えてきた。まき網漁業、かにかご漁業、いか釣漁業が盛んで、平成4年から8年までは水揚げ量日本一を誇っていた。

主な魚種はアジ、カタクチイワシ、サバ、ベニズワイガニ、スルメイカ、クロマグロ等で、ここ数年、マイワシ、ベニズワイガニの減少で、境港の水揚げ量は減少傾向にあった。しかし、平成15年は、アジ、カタクチイワシの増加により10万トン台の水揚げ量に回復し、平成16年もアジ、スルメイカ等の増加により10万トン台の水揚げを維持した。

なお、水揚げされた主要魚種の用途別出荷割合をみると、養殖用又は漁業用餌料向けに約7割、生鮮食料用に約2割となっている。

### 全国漁港の水揚げ量（H16）

	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位	10位
漁 港	銚子	焼津	釧路	福岡	八戸	石巻	長崎	枕崎	境港	根室
水揚げ量(千ト)	201	197	156	153	143	127	123	122	116	96
										千トン
	アジ	イワシ類	ベニズワイ	サバ	イカ	その他				
	46	11	9	8	3	39				

資料：(社) 漁業情報サービスセンター  
注：輸入、陸送を含む

### 境港の水揚げ量及び水揚げ金額の推移（属地）

区分	年次	昭和50年	60	平成2年	7	12	15	16
生産量（千トン）		166.8	404.7	556.9	293.3	140.7	110.1	109.6
伸長率（％）		57	138	190	100	48	36	37
生産額（億円）		161	297	293	295	196	158	163
伸長率（％）		55	101	99	100	66	54	55

資料：鳥取農林水産統計年報  
注：輸入、陸送を除く

### 主な漁業種類別の概要（属人）

主な漁業種類	主な港	漁獲対象種	漁獲量(トン)	金額(百万円)
沿岸漁業	境、御来屋、泊、赤碕、酒津、淀江、鳥取、夏泊等	ハマチ、サザエ、スルメイカ、アカイカ、サワラ等	11,167	4,269
沖合底曳網漁業	境、鳥取、網代、田後	ハタハタ、ズワイガニ、アカガレイ等	5,505	4,183
まき網漁業	境	アジ、サバ、クロマグロ	37,826	5,569
べにずわいがに漁業	境	ベニズワイガニ	4,046	1,012
近海いか釣漁業	境	スルメイカ	1,513	477

資料：鳥取農林水産統計年報

### 海面漁業生産の推移（属人）

区分		単位	まき網	沖合底曳網	近海いか釣	べにずわいがに漁	沿岸漁業	その他の漁業	計
昭和50年	生産量	トン	121,899	10,859	8,135	6,164	6,120	2,998	156,175
	構成比	%	78.1	7.0	5.2	3.9	3.9	1.9	100
	生産額	百万円	5,548	3,695	2,607	734	1,932	644	15,160
	構成比	%	36.6	24.4	17.2	4.8	12.8	4.2	100
61年	生産量	トン	395,611	8,756	1,311	14,220	5,224	2,958	428,080
	構成比	%	92.4	2.0	0.3	3.3	1.3	0.7	100
	生産額	百万円	7,518	5,804	795	3,100	3,020	790	22,786
	構成比	%	35.8	27.6	3.8	14.7	14.4	3.7	100
平成2年	生産量	トン	318,322	5,485	1,499	7,795	8,226	1,998	343,355
	構成比	%	92.7	1.6	0.4	2.3	2.4	0.6	100
	生産額	百万円	9,364	5,584	619	2,003	4,082	591	22,243
	構成比	%	42.1	25.1	2.8	9.0	18.4	2.6	100
7年	生産量	トン	131,480	5,083	1,176	5,178	11,763	1,797	156,477
	構成比	%	84.0	3.2	0.8	3.3	7.5	1.2	100
	生産額	百万円	9,719	5,237	474	1,087	4,836	480	21,833
	構成比	%	44.5	24.0	2.2	5.0	22.1	2.2	100
12年	生産量	トン	43,002	5,540	1,248	6,039	11,628	10,348	77,805
	構成比	%	55.3	7.1	1.6	7.8	14.9	13.3	100
	生産額	百万円	4,573	4,491	216	1,437	4,943	1,044	16,704
	構成比	%	27.3	26.8	1.2	8.5	30.0	6.2	100
15年	生産量	トン	53,121	6,089	1,916	4,184	11,897	246	77,452
	構成比	%	68.6	7.9	2.5	5.4	15.4	0.3	100
	生産額	百万円	5,640	4,378	282	1,121	4,374	192	15,987
	構成比	%	35.3	27.4	1.8	7.0	27.4	1.2	100
16年	生産量	トン	37,826	5,505	1,513	4,046	11,167	223	60,409
	構成比	%	62.6	9.1	2.5	6.7	18.7	0.4	100
	生産額	百万円	5,569	4,183	477	1,012	4,269	446	16,046
	構成比	%	34.7	26.1	3.0	6.3	27.2	2.8	100

資料：鳥取農林水産統計年報

注：海面養殖は除く

### 3 漁業生産

#### (1) 沿岸漁業

沿岸漁業は本県沖合のおよそ水深100m以浅の海域において、小型底曳網漁業、刺網漁業、釣漁業等を主幹漁業とし、その他各種漁業を組み合わせることで極めて濃密に漁場を利用しつつ操業している。

#### 小型底曳網漁業生産状況

単位：漁獲量＝t、比率＝%

年次	漁労働者数	出漁日数	漁獲量							1日労働者当たり	
			計	ひらめ	かれい類	たい類	えび類	貝類	その他	出漁日数	漁獲量
昭和50年	269統	14,581日	1,326	132	477	32	72	189	424	54日	4,929kg
60年	193	10,888	592	95	172	27	57	26	215	56	3,067
平成2年	179	13,076	726	91	228	58	48	50	251	73	4,056
7年	171	12,700	969	193	329	74	35	42	296	74	5,667
12年	134	7,751	501	18	177	18	23	15	250	58	3,739
15年	122	7,544	581	39	244	40	15	7	236	62	4,762
16年	120	7,087	501	38	172	40	8	19	225	59	4,175
対前年比	98	94	86	97	71	100	53	271	95	95	88
構成比	—	—	100	7.6	34.3	8	1.6	3.8	44.9	—	—

資料：鳥取農林水産統計年報

#### 刺網漁業生産状況（いか流し網を除く）

単位：漁獲量＝t、比率＝%

	漁労働者数	出漁日数	漁獲量							1日労働者当たり	
			計	ぶり類	ひらめ	かれい類	たい類	とびうお類	その他	出漁日数	漁獲量
昭和50年	748統	38,310日	1,724	535	13	75	47	182	828	51日	2,305kg
60年	729	28,112	1,301	311	22	38	49	70	645	39	1,785
平成2年	582	28,237	1,025	263	31	28	84	28	550	49	1,761
7年	507	23,973	1,106	416	20	47	174	10	409	47	2,181
12年	450	20,544	1,423	617	5	12	269	17	489	46	3,162
15年	495	18,733	2,118	1,596	6	16	187	11	302	38	4,279
16年	505	18,624	3,242	2,825	5	13	78	11	310	37	6,420
対前年比	102	99	153	177	83	81	42	100	102	97	150
構成比	—	—	100	87.0	0.2	0.4	2.4	0.3	9.6	—	—

資料：鳥取農林水産統計年報

#### (2) 沖合底曳網漁業

70～90t階層漁船を主体に田後港、網代漁港、鳥取港、境漁港を主な基地として、山口・島根県から本県の沖合海域で操業し、ズワイガニ、ハタハタ、カレイ類、ニギス等を漁獲している。

本県漁業に占める割合は漁獲量では9%だが、生産額は26%で第2位の主要漁業となっている。

#### (3) 大中型まき網漁業

130t階層の漁船を主体に境漁港を基地として、隠岐島周辺を含む西部日本海沖に出漁し、アジ、サバ、クロマグロ等を主な漁獲対象として操業している。

本県漁業に占める割合は、漁獲量が63%、生産額が35%で、量・金額とも県内漁業の第1位の主要漁業となっている。

#### (4) ペにずわいがに漁業

130t階層漁船を主体に境漁港を基地として、大和堆海域、北陸～青森県沖の日本海等に出漁して操業しているが、深海漁場の開発等の成果を背景に、昭和44年に初めて境港に水揚げされ、その後年々増加して昭和59年に過去最高の漁獲量1万5,084tとなったが、排他的経済水域及び日韓暫定水域の設定、ペにずわいがに資源の低迷、減船等により、近年の漁獲量は4,150 t前後と低位に推移している。

#### (5) 沖合いか釣漁業

85～170 t 漁船を主体に境漁港を基地として、北は沿海州、西は黄海方面まで出漁している。近年、するめいか資源は比較的高い水準で推移しているが、減船等漁船の減少により、近年の漁獲量は1,600 t 前後である。

#### (6) 内水面漁業

内水面における漁業は、3河川（千代川、天神川、日野川）、2湖沼（湖山池、東郷池）で行われており、河川では、アユ、コイ等を、湖沼ではワカサギ、フナ、シジミ等を漁獲している。漁業協同組合はアユ、コイ、フナ、ワカサギ、ウナギ等有用魚類の放流事業を漁業権管理の一つとして実施して、水産資源の増殖と漁業生産の増大を図っている。また、内水面は県民へのレクリエーションの場の提供という重要な役割も持っている。

#### 内水面漁業一覧表

区分	名称	流程面積	漁業権魚種	漁業権	漁獲量 (15年)(t)
河川	千代川	223 km	あゆ、いわな、やまめ、にじます、 こい、あまご 、うなぎ	第5種共同漁業権	88
	天神川	83 km			14
	日野川	153 km			206
湖沼	湖山池	6,930千㎡	しじみ、採藻、わかさぎ、ふな、こい、 うなぎ、しらうお、えび、ぼら、せいご	第1種・第5種共同漁業権	15
	東郷池	4,100千㎡	しじみ、採藻、ゴカイ、ふな、こい、う なぎ、しらうお、わかさぎ、えび、ぼら、 せいご	第1種・第5種共同漁業権	68

資料：水産課調べ

#### 内水面漁獲量の推移

単位：t

年次	区分	河 川 (千代川、天神川、日野川)	湖 沼 (湖山池、東郷池)	合 計
	昭和50年		358	75
61年		502	168	670
平成 2年		492	173	665
7年		552	296	848
12年		452	427	879
15年		308	83	391

資料：鳥取農林水産統計年報

## 4 漁業経営

### 1 主とする漁業種類別経営体数

単位：経営体数＝経営体、比率＝%

区分	計	沖合底 びき網	小型底 びき網	船び き網	まき 網	その他 の釣	はえ 縄	いか 釣	その他 の釣	地び き網	定置 網	採貝	採藻	その他 の漁業	海面 養殖
平10	1,013	38	141	6	10	289	3	206	129	13	3	97	20	50	8
11	966	38	113	12	10	197	6	186	173	7	3	147	6	57	11
12	954	37	103	10	9	197	3	201	158	6	3	167	6	45	9
13	937	37	90	7	8	190	7	179	175	6	3	166	5	56	8
14	943	32	91	7	6	164	3	196	182	5	3	166	13	68	7
15	946	30	82	4	3	187	3	187	205	9	3	142	17	68	6
16	966	29	83	4	2	205	2	151	214	7	3	175	17	65	9
対10年比	93	79	58	66	30	65	100	91	159	69	100	146	85	136	75
構成比	100	3.0	8.6	0.4	0.2	21.2	0.2	15.6	22.2	0.7	0.3	18.1	1.8	6.7	0.9

資料：鳥取農林水産統計年報

注：まき網の内訳は、大中型まき網と中・小型まき網。

### 2 漁業世帯数及び漁業就業者数

単位：世帯数＝戸、就業者数＝人、比率＝%

区分	計	自営 漁業 世帯	漁業 従事者 世帯	漁業就業者						
				計	男子					女子
					小計	15～24歳	25～39	40～59	60歳以上	
平10	1,641	951	690	1,849	1,759	53	221	822	663	90
11	1,540	890	650	1,740	1,650	30	210	730	670	90
12	1,520	890	640	1,680	1,590	30	170	710	690	90
13	1,500	870	630	1,640	1,550	20	130	740	670	90
14	1,480	880	610	1,580	1,490	20	120	680	670	90
15	1,392	878	514	1,540	1,489	37	146	653	653	51
対10年比	85	92	74	82	85	70	66	79	98	57
構成比	100	63	37	100	97	3	10	42	42	3
男子就業者構成比	—	—	—	—	100	2	10	44	44	—

資料：鳥取農林水産統計年報

注：H16から鳥取県分は掲載されなくなった。

## 5 栽培漁業の現況

本県では、昭和56年度に栽培漁業センターを開設してからアワビ、サザエ、クルマエビ等の人工種苗の生産・放流や、養殖向けヒラメ種苗の生産を実施し、地域水産資源の増殖や安定生産による沿岸漁業の振興を図っている。

### H16年度種苗生産及び種苗放流数

単位：千尾（mm）

魚種	アワビ	サザエ	クルマエビ	養殖ヒラメ
種苗生産数	111.5(22,30)	297.5(6,9)	2,600(28)	21.5(50)
放流数	111.5(22,30)	297.5(6,9)	2,600(28)	—

資料：財）鳥取県栽培漁業協会資料（H16年度）

注：括弧内は、大きさを示す。



## 6 漁港

本県の漁港はそのほとんどが砂浜海岸にあり、そのため漂砂、冬期風浪による港内埋没等厳しい自然条件下におかれている。漁業生産の基盤であり、流通の拠点である漁港を整備することにより漁船の操業の安全と水産業の振興を図っている。

漁 港		港 湾	
区 分	指定漁港数	区 分	指定港湾数
第1種漁港	14	地方港湾	3
第2種漁港	2	重要港湾	2
第3種漁港	1(特3)1	避 難 湾	1
計	18	計	6

### 漁港指定の状況

区 分	名 称
第1種漁港	東漁港、岩戸漁港、酒津漁港、船磯漁港、夏泊漁港、青谷漁港、長和瀬漁港、羽合漁港、御崎漁港、御来屋漁港、平田漁港、皆生漁港、崎津漁港、渡漁港
第2種漁港	泊漁港、淀江漁港
第3種漁港	網代漁港
特定第3種漁港	境漁港
地方港湾(うち避難港含む)	田後港、赤碕港、逢坂港、米子港
重要港湾	鳥取港

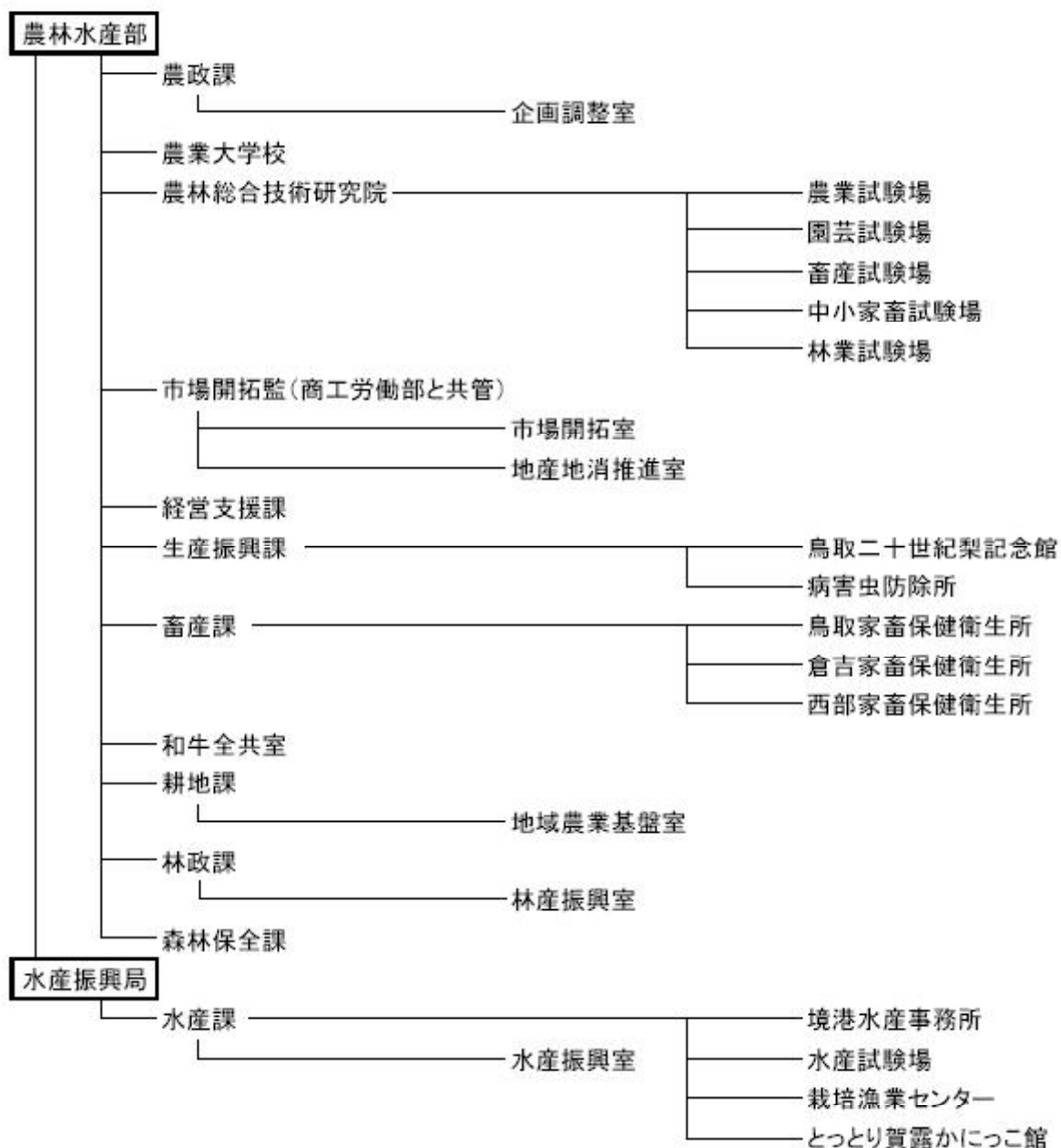
# 参 考 资 料

## 県内ふれあい市の状況

	名 称	市町村	実 施 場 所
1	賀露ふれあい市	鳥取市	JA鳥取いなば賀露支所内
2	ふれあいかろいち	鳥取市	鳥取港海鮮市場「かろいち」内
3	湖山ふれあい市	鳥取市	JA鳥取いなば湖山支店内
4	JAグリーン千代水店「愛菜館」	鳥取市	JAグリーン千代水店内
5	松保ふれあい市	鳥取市	JA鳥取いなば松保支店横
6	中ノ郷ふれあい市	鳥取市	JA鳥取いなば中ノ郷支店駐車場
7	女性会フレッシュ朝市	鳥取市	Aコープトスク本店内
8	美保ふれあい市	鳥取市	トスク100円美保市場
9	美穂ふれあい市	鳥取市	JA鳥取いなば美穂支店内
10	大和ふれあい市	鳥取市	久松地区公民館前
11	神戸わったい市	鳥取市	神戸ふれあいセンター
12	トスク雲山店生産者直売コーナー (おもかげ朝市)	鳥取市	Aコープトスク雲山店店内
13	稲葉ふれあい市	鳥取市	JA鳥取いなば稲葉支店内
14	津ノ井ふれあい市	鳥取市	Aコープトスクつこの店前
15	津ノ井ニュータウン朝市	鳥取市	若葉台南公園内
16	フレッシュパークテント村野菜畑	鳥取市	フレッシュパーク若葉台
17	トスク吉方店インショップコーナー	鳥取市	Aコープトスク吉方店店内
18	企業組合 ふれあいウイズ	鳥取市	若桜街道まちなか交流館内
19	グリーンコープこくふ	鳥取市	鳥取市国府町新町
20	岩美ふれあい館直売所	岩美町	岩美町緑地管理中央センター内
21	いきいきふれあい市	岩美町	JA鳥取いなば浦富支店前
22	岩井ふれあい市	岩美町	岩美町老人福祉センター内駐車場
23	蒲生ふれあい市	岩美町	蒲生活活性化施設 一寸法師の館 横
24	福部ふれあい市	鳥取市	JA鳥取いなば らっきょう加工場横 鳥取砂丘情報館「サンドバルとっとり」
25	下私都ふれあい市	八頭町	JA鳥取いなば下私都支店
26	物産館みかど	八頭町	郡家町大門
27	こおげフレンドセンター	八頭町	JA鳥取いなば郡家支店 梨選果場 横
28	船岡ふれあい市	八頭町	Aコープトスクふなおか店敷地内
29	53号百円市	鳥取市	JA鳥取いなば 釜口ジャンプ店前
30	散岐ふれあい百円市	鳥取市	JA鳥取いなば散岐支店前
31	西郷100円市 ひまわり会	鳥取市	JA鳥取いなば西郷支店前
32	フルーツ総合センター	八頭町	道の駅 はっとう
33	八東町ふれあい市	八頭町	Aコープトスク丹比店前
34	にこにこふれあい市	若桜町	JA鳥取いなば若桜町支店
35	農産物直売所もちっこ	鳥取市	JA鳥取いなば用瀬町支店敷地内
36	用瀬ふれあい百円市	鳥取市	農産物直売所もちっこ 南側
37	佐治村支店100円市	鳥取市	選果場・開葎センター横
38	百彩館	智頭町	トスクちず店駐車場内
39	御重縁ショップ	智頭町	智頭町慶所
40	にこにこ市	鳥取市	JA鳥取いなば山東支店敷地
41	鹿野おもしろ市場	鳥取市	温泉館ホットピア鹿野横
42	かちべ伝承館ふれあい市	鳥取市	かちべ伝承館前
43	100円市	鳥取市	JA鳥取いなば青谷町支店
44	ようこそ館市	鳥取市	青谷ようこそ館内
45	パークスクエア日曜朝市	倉吉市	倉吉パークスクエア ふれあい広場
46	久米にこにこ市	倉吉市	JA鳥取中央資材センター駐車場
47	おがも朝市	倉吉市	小鴨広場
48	上北条かつさま市	倉吉市	JA鳥取中央上北条生活センター横
49	めいりんふれあい市	倉吉市	JA鳥取中央本所東隣広場
50	JA鳥取中央直売店フルテリア	倉吉市	倉吉パークスクエア内
51	フルテリア西郷店	倉吉市	倉吉市八屋
52	どっこい天神朝市	倉吉市	めいりんショッピングセンター内
53	灘手青空市	倉吉市	JA鳥取中央灘手支店ガソリンスタンド跡地

	名 称	市町村	実 施 場 所
54	JA関金町支所女性会新鮮組	倉吉市	Aコープ関金店内
55	湯の関ふれあいハウス	倉吉市	高齢者生活福祉センター隣
56	道の駅「犬狹」	倉吉市	国道313号犬狹トンネル関金側前
57	湯命市	倉吉市	関金都市交流センター内
58	ハワイ夢マーケット	湯梨浜町	JA鳥取中央羽合町支所前
59	甲亀山ふれあい市	湯梨浜町	「岩沼衣料店」内
60	とうごう市	湯梨浜町	Aコープ東郷店前駐車場
61	楽市楽座	三朝町	国道179号線沿い
62	木地山百円市	三朝町	国道179号線沿い
63	泉の里特産市	三朝町	三朝町今泉
64	三朝おひさま市	三朝町	三朝温泉病院向かい
65	H0JY0砂丘マーケット	北条町	Aコープ下北条店内
66	お台場いちば	大栄町	道の駅「大栄」内
67	Aコープだいえい店農産物直売所	大栄町	Aコープだいえい店
68	JAとうはくとれ鮮市「ブラッツ広場」	琴浦町	東伯ブラッツ
69	JAとうはくとれ鮮市「トピア広場」	琴浦町	トピア東伯店
70	赤碕ふれあい市	琴浦町	Aコープ赤碕店前
71	赤碕町漁協直売センター	琴浦町	ポート赤碕内
72	アグリポート琴浦	琴浦町	ポート赤碕横
73	浜の目市場	米子市	JAグリーンはま前
74	米原つくし会	米子市	米子北高正門の南側
75	どど〜んと土曜日新鮮組の朝市	米子市	BSS山陰放送前庭
76	リボンやさいハウス	米子市	米子中央ゴルフクラブ駐車場内
77	長砂なかよし会朝市	米子市	長砂橋北側
78	尚徳いきいき会	米子市	JA鳥取西部尚徳支所倉庫前
79	河岡桜美会野菜市	米子市	県道米子丸山線沿山本薬局東側
80	どんぐり村ときめき市場	米子市	淀江どんぐり村内
81	淀江いきいき新鮮市場	米子市	Aコープ淀江店敷地内
82	車尾朝市	米子市	JA鳥取西部車尾支所前
83	JAグリーンさかいみなど農産物直売所	境港市	JA鳥取西部境港支所裏
84	鳥取県漁協境港支所水産物直売所「海神」	境港市	鳥取県漁協境港支所
85	JAグリーンせいぶ「ふれあい村アスパル」	日吉津村	JAグリーンせいぶ
86	めぐみの里農産物直売所	南部町	JA鳥取西部西伯町支所
87	法勝寺まごころ市	南部町	福祉センターしあわせ
88	緑水湖ふれあい市	南部町	緑水園、祐生出合いの館
89	JAグリーンなんぶ「ふれあい村アスパル」	南部町	JAグリーンなんぶ
90	岸本農芸クラブとれたて市	伯耆町	鳥取銀行岸本支店横
91	みぞぐち朝市	伯耆町	旧JA鳥取西部溝口支所跡
92	岸本町特産品売場(大山ガーデンプレイス)	伯耆町	大山ガーデンプレイス交流センター
93	仁王堂ふれあい市	大山町	仁王堂公園内
94	香取直売グループ(やまほうし)	大山町	香取村ミルクプラント敷地内
95	みくりや市	大山町	JR御来屋駅舎内
96	中山いきいき新鮮市場	大山町	Aコープ中山店
97	印賀ふれあい市	日南町	農事組合法人「ファームイング」横
98	阿毘緑 もみの木市	日南町	解脱寺門前駐車場
99	ふれあい朝市	日南町	JAグリーンにちなん・営農センター横
100	にこにこ市	日南町	JA鳥取西部日野町支所前
101	ふくさか天体市	日南町	福栄神社付近
102	アメダス茶屋サンデーイチ	日南町	アメダス茶屋駐車場木造建物
103	ふれあい朝市	江府町	JA鳥取西部江府町支所パルミー前
104	みちくさ市	江府町	米子自動車道の江府IC入口

## 鳥取県行政組織機構(平成 18 年 4 月 1 日現在)



\* 東部・八頭・中部・西部・日野農林局は総務部所管

# 県内の主な農林水産業団体一覧

平成18年3月1日現在

	組合等名	組合長	郵便番号	住 所	電話	FAX
農業	鳥取いなば農業協同組合	中島 建	680-0942	鳥取市湖山町東5丁目261	0857-32-1100	32-1130
	鳥取中央農業協同組合	坂根 國之	682-0867	倉吉市越殿町1409	0858-23-3000	23-3070
	東伯町農業協同組合	熊本 繁美	689-2395	東伯郡琴浦町徳万558-1	0858-53-1611	53-1943
	鳥取西部農業協同組合	山西 敷	683-0802	米子市東福原1丁目5-16	0859-34-1141	37-5870
	鳥取県畜産農業協同組合	鎌谷 一也	689-1112	鳥取市若葉台南7丁目108-12	0857-52-1129	52-1131
	大山乳業農業協同組合	幅田信一郎	689-2393	東伯郡琴浦町保37-1	0858-52-2211	53-1501
共済	鳥取東部農業共済組合	西尾 遼富	680-0842	鳥取市吉方168-5	0857-27-5331	22-4978
	鳥取県中部農業共済組合	有福 隆春	689-2202	東伯郡北栄町東園271	0858-37-5252	37-5025
	伯耆農業共済組合	坂本 昭文	683-0004	米子市上福原658-1	0859-22-1001	22-1094
森林	鳥取県東部森林組合	福政 貴達	680-0947	鳥取市湖山町西1丁目328-2	0857-28-5751	28-9180
	八頭中央森林組合	山根 英明	680-0461	八頭郡八頭町郡家763-10	0858-72-1111	72-1150
	智頭町森林組合	澤米 由己	689-1402	八頭郡智頭町智頭2081-4	0858-75-0075	75-1192
	鳥取県中部森林組合	森下 洋一	682-0034	倉吉市大原1034-1	0858-22-6622	22-6672
	大山森林組合	赤川 哲夫	689-3303	西伯郡大山町所子316	0859-53-4935	53-4760
	鳥取県西部森林組合	持田 寛	683-0351	西伯郡南部町法勝寺371-1	0859-66-2102	66-2896
	鳥取日野森林組合	生田 榮	689-4505	日野郡日野町舟場277-3	0589-72-0066	72-1374
	日南町森林組合	入澤 宏	689-5211	日野郡日南町生山423-2	0859-82-0130	82-0321
水産	(海面漁業)					
	鳥取県漁業協同組合	伊藤美都夫	680-0908	鳥取市賀露町西4丁目1806	0857-28-0111	28-7060
	田後漁業協同組合	水野 行則	681-0071	岩美郡岩美町田後68	0857-72-1531	73-0243
	中部漁業協同組合	松井市三郎	689-2104	東伯郡北栄町弓原334	0858-36-2139	36-2139
	赤碕町漁業協同組合	祇園 行裕	689-2501	東伯郡琴浦町赤碕1735	0858-55-0421	55-0423
	米子市漁業協同組合	武良 賢治	683-0835	米子市灘町1丁目無番地	0859-33-6735	23-3818
	(内水面漁業)					
	千代川漁業協同組合	石谷 定	680-1241	鳥取市河原町長瀬34-5	0858-85-0853	85-0764
	天神川漁業協同組合	山崎賀津雄	682-0851	倉吉市西倉吉町7-12	0858-28-1011	28-1116
	日野川水系漁業協同組合	佐藤 英夫	689-3546	米子市熊党323-1	0859-27-3257	27-3234
	湖山池漁業協同組合	片山 繁雄	680-0945	鳥取市湖山町南1丁目969-5	0857-28-1078	28-1530
	東郷湖漁業協同組合	尾崎 順一	682-0712	東伯郡湯梨浜町上浅津123-20	0858-35-2025	35-2025
	(業種別及び加工業)					
	山陰旋網漁業協同組合	和田卓一郎	684-0034	境港市昭和町2-23	0859-42-6381	42-3385
	境港水産加工業協同組合	清水 候	684-0034	境港市昭和町12-6	0859-44-1851	44-1853
	鳥取県無線漁業協同組合	景山 一夫	684-0046	境港市竹内団地107	0859-45-1991	45-1993

## (主な上部団体)

区分	組合等名	会長	郵便番号	住所	電話	FAX
農業	鳥取県農業協同組合中央会	竹中 登	680-0833	鳥取市末広温泉町723 JA会館内	0857-21-2600	37-0052
	鳥取県信用農業協同組合連合会	中島 建	680-0833	鳥取市末広温泉町723 JA会館内	0857-21-2800	27-0399
	全国農業協同組合連合会 鳥取県本部	本部長 中島 護	680-0833	鳥取市末広温泉町724 JA会館内	0857-27-2710	27-2860
	全国共済農業協同組合連合会 鳥取県本部	本部長 磯尾 幸男	680-0833	鳥取市末広温泉町723 JA会館内	0857-21-2650	27-7059
	鳥取県農業共済組合連合会	西尾 遼富	680-0841	鳥取市吉方温泉3丁目811	0857-22-8591	27-3414
森林	鳥取県森林組合連合会	山根 英明	680-0947	鳥取市湖山町西2丁目413	0857-28-0121	28-1235
水産	鳥取県信用漁業協同組合連合会	船本 幸作	680-0802	鳥取市青葉町3丁目111	0857-23-1351	22-0234
	鳥取県内水面漁業協同組合連合会	片山 繁雄	680-0945	鳥取市湖山町南1丁目969-5 (湖山池漁業協同組合内)	0857-28-1078	28-1530
	全国共済水産業組合連合会鳥取 県事務所	所長 伊藤美都夫	680-0802	鳥取市青葉町3丁目111	0857-23-1362	22-9504

市町村別地域指定の概要

市町村名	項目	市町村番号	農業地域類型区分	農業振興地域		都市計画区域		特定農山村地域指定	振興山村地域指定	過疎地域指定	地すべり防止区域指定(農)	地すべり防止区域指定(林)	地すべり防止区域指定(国)	農村工業等導入実施計画策定	自然公園区域指定	自然環境保全区域指定	酪肉生産近代化計画認定	野菜指定産地	果樹農業振興計画	八果樹広域濃密生産団地	市町村番号			
				地域指定	整備計画策定	広域整備計画策定	△広域営農団地															区域指定	線引き	用途地域
				年月日	年月日	年月日	年月日															年月日	年月日	年月日
鳥取市	旧鳥取市	1	都	46. 3. 31	49. 3. 29	49. 4. 9	H5. 4. 30	45.12.28	37. 9. 20	H5	46		—	1	3	47	38	52	H13	H8・秋冬ねぎ	(H13) 日本なし、かき、ぶどう、もも、りんご	1		
	旧国府町	2	中	47. 3. 31	49. 3. 11	49. 4. 9	53. 4. 14	45.12.28	37. 9. 20	H5	44		—	1	2	47	44	52	H13	H8・秋冬ねぎ	(H13) 日本なし、かき、ぶどう、もも、りんご	2		
	旧福部村	3	中	47. 3. 31	48. 1. 11	55. 4. 22	H9. 4. 1						—	—	—	38				H8・秋冬ねぎ	(H13) 日本なし、かき、ぶどう、もも、りんご	3		
	旧河原町	4	中	45. 3. 31	46. 6. 17	—	51. 3. 30				H5	46		2	—	2	48	63	H13	H8・秋冬ねぎ	(H13) 日本なし、かき、りんご	4		
	旧用瀬町	5	山	46.11.30	48.10. 2	—					H5	43	H2	—	—	—	H6	44	62	H13	H8・秋冬ねぎ	(H13) 日本なし、かき、ぶどう、もも、りんご	5	
	旧佐治村	6	山	45.10.31	47.10.13	—					H5	41	45	2	2	4		58	59		H16・秋冬ねぎ	(H13) 日本なし、かき、ぶどう、もも、りんご	6	
	旧気高町	7	平	47.11. 7	49. 3. 16	51. 3. 5	30. 4. 4							—	1	—		59	H3	H13	H8・秋冬ねぎ	(H13) 日本なし、かき、ぶどう、もも、りんご	7	
	旧鹿野町	8	山	47.11. 7	49. 3. 27	51. 3. 5	32.10.23				H5	45		—	—	—		62	H10	H13	H8・秋冬ねぎ	(H13) 日本なし、かき、ぶどう、もも、りんご	8	
	旧青谷町	9	中	47.11. 7	49. 3. 27	51. 3. 5	39.10.23				H5	43	H2	—	—	—	46	59		H13	H8・秋冬ねぎ	(H13) 日本なし、かき、ぶどう、もも、りんご	9	
米子市	旧米子市	10	都	46. 4. 20	49. 9. 27	47. 5. 16	H5. 5. 20	46. 3. 20	44. 4. 17				—	—	—				H13	42・冬にんじん、秋冬ねぎ 58・たまねぎ 60・夏ねぎ H9・春ねぎ	(H13) 日本なし、かき、ぶどう、もも、りんご	10		
	旧澁江町	11	平	46.11.30	49. 4. 19	47. 5. 16	51. 3. 30						—	—	—						42・冬にんじん H7・夏ねぎ、秋冬ねぎ H16・春ねぎ	(H13) 日本なし、かき、りんご、くり	11	
倉吉市	旧倉吉市	12	中	47. 3. 31	49. 7. 20	48. 3. 30	H14. 2. 14		50. 3. 30	H5			—	—	1	46	29		H13	51・冬キャベツ 63・秋冬ねぎ H5・夏秋キャベツ	(H13) 日本なし、かき、ぶどう、りんご、うめ	12		
	旧関金町	13	中	46.11.30	49. 1. 14	48. 3. 30	41.11.11			H5	42		—	—	—	46 61	11		H13	63・秋冬ねぎ	(H13) 日本なし、かき、ぶどう、りんご、うめ	13		
境港市		14	都	45. 3. 31	50.12.18	—	H10. 2. 16	46. 3. 20	44. 4. 17				—	—	—						42・秋冬ねぎ 60・夏ねぎ H9・春ねぎ H13・冬にんじん		14	
岩美町		15	山	47.11. 7	49. 6. 4	55. 4. 22	32.10.23			H5	45		1	3	1	50	38 44	53 H15	H13	H8・秋冬ねぎ	(H13) 日本なし、かき、ぶどう、もも、りんご	15		
八頭町	旧郡家町	16	中	45.10.31	46. 6. 17	—	34. 3. 31			H5	44		1	1	1		44		H13	H8・秋冬ねぎ	(H13) 日本なし、かき、ぶどう、もも、りんご	16		
	旧船岡町	17	山	48.10.19	49. 3. 27	—	51. 3. 30			H5	45		1	—	1	58			H13	H10・秋冬ねぎ	(H13) 日本なし、かき、ぶどう、もも、りんご	17		
	旧八東町	18	山	45.10.31	48. 3. 11	—				H5	43	46	—	—	1	47	44		H13	52・夏だいこん H16・秋冬ねぎ	(H13) 日本なし、かき、ぶどう、もも、りんご	18		
若桜町		19	山	47.11. 7	49. 3. 27	—	51. 3. 30			H5	42	45	—	—	1		44				52・夏だいこん	(H13) 日本なし、かき、ぶどう、もも、りんご	19	
智頭町		20	山	48.10.19	49. 3. 27	—	29. 3. 29			H5	44	H2	—	1	—		44		H13	H12・秋冬ねぎ	(H13) 日本なし、かき、ぶどう、もも、りんご	20		
湯梨浜町	旧羽合町	21	平	46.11.30	49.10. 2	H5. 7. 6	37. 5. 15			H5			—	—	—		29				H12・秋冬ねぎ	(H13) 日本なし、かき、ぶどう、りんご、うめ	21	
	旧泊村	22	中	47.11. 7	49. 3. 29	H5. 7. 6							H2	1	—	—		H13			H16・秋冬ねぎ	(H13) 日本なし、かき、ぶどう、りんご、うめ	22	
	旧東郷町	23	中	46.11.30	47.10.13	H5. 7. 6	26. 8. 20			H5			—	—	—		29				H16・秋冬ねぎ	(H13) 日本なし、かき、ぶどう、りんご、うめ	23	
三朝町		24	山	48.10.19	49. 5. 22	H5. 7. 6	33.10.28			H5	40		—	1	—		29 58	52	H13		(H13) 日本なし、かき、ぶどう、りんご、うめ	24		
北栄町	旧北条町	25	平	47.11. 7	49. 3. 11	H5. 7. 6	H11. 5. 7						—	—	—	49 58					63・秋冬ねぎ	(H13) 日本なし、かき、ぶどう、りんご、うめ	25	
	旧大栄町	26	平	45.10.31	46. 6. 17	48. 3. 30	H10. 5. 1						—	—	—				H13	48・冬キャベツ H12・秋冬ねぎ H5・夏秋キャベツ	(H13) 日本なし、かき、ぶどう、りんご、うめ	26		
琴浦町	旧東伯町	27	中	45. 3. 31	45.12.28	48. 3. 30	46. 7. 30			H5	43 46		—	—	—	H11	11		H13	H16・秋冬ねぎ	(H13) 日本なし、かき、ぶどう、りんご、うめ	27		
	旧赤碕町	28	中	45. 3. 31	45.12.28	48. 3. 30	31. 5. 10			H5	45		—	—	—		11		H13	H12・秋冬ねぎ	(H13) 日本なし、かき、ぶどう、りんご、うめ	28		
南部町	旧西伯町	29	中	45. 3. 31	46. 6. 17	62. 3. 27				H5	47		—	—	—	48		52 55	H13	H9・夏ねぎ H9・秋冬ねぎ	(H13) 日本なし、かき、りんご、くり	29		
	旧会見町	30	中	46.11.30	49. 3. 30	47. 5. 16					46		—	—	—	48			H13	H7・秋冬ねぎ H9・夏ねぎ	(H13) 日本なし、かき、りんご、くり	30		
伯耆町	旧岸本町	31	平	45.10.31	47.10.13	47. 5. 16							—	—	—	11			H13	52・秋冬ねぎ 60・夏ねぎ H9・春ねぎ	(H13) 日本なし、かき、りんご、くり	31		
	旧溝口町	32	中	45.10.30	49. 6. 17	47. 5. 16				H5	47	45	1	—	1	46	11		H13	62・秋冬ねぎ H7・夏ねぎ H16・春ねぎ	(H13) 日本なし、かき、りんご、くり	32		
日吉津村		33	都	47.11. 7	49. 6. 21	—	35.12.25	46. 3. 30	48.12.25				—	—	—						H7・夏ねぎ H7・秋冬ねぎ H9・春ねぎ		33	
大山町	旧大山町	34	中	45. 3. 31	45.12.28	47. 5. 16					47		—	—	—	49	11		H13	H2・秋冬ねぎ H7・夏ねぎ H9・春ねぎ	(H13) 日本なし、かき、りんご、くり	34		
	旧名和町	35	平	47.11. 7	49. 3. 30	47. 5. 16							—	—	—	57	11		H13	62・秋冬ねぎ H7・夏ねぎ H9・春ねぎ	(H13) 日本なし、かき、りんご、くり	35		
	旧中山町	36	中	45.10.31	46. 6. 17	47. 5. 16							—	—	—	49	11		H13	62・秋冬ねぎ H7・夏ねぎ H9・春ねぎ	(H13) 日本なし、かき、りんご、くり	36		
日南町		37	山	47.11. 7	49. 3. 29	H元. 3. 31				H5	41	45	—	2	2		38 39	H13	H13	H7・夏ねぎ H7・秋冬ねぎ	(H13) 日本なし、かき、りんご、くり	37		
日野町		38	山	46.11.30	49. 1. 14	H元. 3. 31				H5	42	46	—	—	5	48	39 H14		H13	H7・夏ねぎ H7・秋冬ねぎ	(H13) 日本なし、かき、りんご、くり	38		
江府町		39	山	47. 3. 31	49. 3. 23	47. 5. 16				H5	44		—	—	—	H17	11		H13	62・秋冬ねぎ H7・夏ねぎ	(H13) 日本なし、かき、りんご、くり	39		

注：1 農業地域類型区分の「都」が「都市的地域」、「平」は「平地農業地域」、「中」は「中間農業地域」、「山」は「山間農業地域」を示す。

2 数字は各々の指定、策定、作成、樹立年度等を示す。

3 工場適地○印は年度不明の場合及び市町村内の地区ごとに指定等年度が異なるため、市町村単位で年度が

特定できない場合を示す。

4 地すべり防止区域指定の「農」は農林振興局、「林」は林野庁、「国」は国土交通省に該当することを表す。

平成18年4月  
鳥取県農林水産業の概要  
発行 鳥取県農林水産部  
〒680-8570 鳥取市東町一丁目220  
電話 0857-26-7253



### 県鳥（おしどり）

水鳥の一種で県内の沼や池に住む保護鳥。美しく、平和な姿をした鳥で、年中県内に生息している。（昭和39年11月21日選定）



### 県花（二十世紀梨）

県の産業・生活などに関係が深く、県花のどこでも見られ、県民に広く愛され、親しまれている。（昭和29年3月22日選定）



### 県木（ダイセンキヤラボク）

強く伸びる姿が本県の自然美を代表する、高山に生息するイチイ科の針葉樹。（昭和41年9月30日選定）



### 県魚（ヒラメ）

県内の沿岸海域で獲れ、高級魚のイメージを持つ本県の栽培漁業の主役魚。（平成2年9月2日選定）